TOUR DE HOKKAIDO 2016

9.1 THU ▶3 SAT

第30回 ツール・ド・北海道

ステージレース 総走行距離511km

第1ステージ《タイムトライアル 1km》9/1(木) 札幌市豊平区豊平川河川敷地
第2ステージ《ロードレース 111km》9/1(木) 札幌市～赤井川村～倶知安町
第3ステージ《ロードレース 180km》9/2(金) 倶知安町～蘭越町～倶知安町
第4ステージ《ロードレース 219km》9/3(土) 倶知安町～洞爺湖町～札幌市

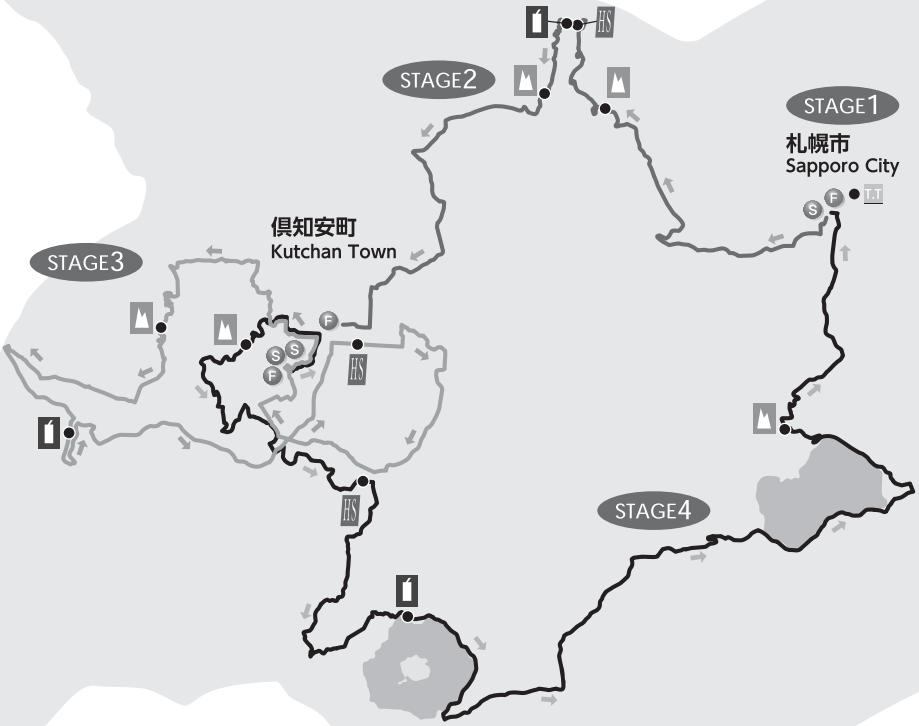
UCI ASIA TOUR

事業報告
RACE REPORT

RING!RING! プロジェクト
この大会は、競輪の補助を受けて実施しました。
http://ringring-keirin.jp
KEIRIN

Course Layout 2016

コースレイアウト2016



■ **9月1日(木)出発式**
会場　札幌市豊平区 豊平川河川敷地特設会場　<8:00~8:15>

[競技日程]

■ **9月1日(木)第1ステージ**　1Km(個人タイムトライアル)　札幌市
　ス タ ー ト：札幌市 豊平川河川敷地　<8:30>
　フィニッシュ：札幌市 豊平川河川敷地

■ **9月1日(木)第2ステージ**　111Km(ロードレース)　札幌市~小樽市~赤井川村~倶知安町
　ス タ ー ト：札幌市南区 アパホテル&リゾート札幌前　<13:00>
　フィニッシュ：倶知安町 公民館手前

■ **9月2日(金)第3ステージ**　180Km(ロードレース)　倶知安町~蘭越町~京極町~倶知安町
　ス タ ー ト：倶知安町 ヒラフスキー場前　<9:30>
　フィニッシュ：倶知安町 ヒラフスキー場前

■ **9月3日(土)第4ステージ**　219Km(ロードレース)　倶知安町~洞爺湖町~千歳市~札幌市
　ス タ ー ト：倶知安町 ヒラフスキー場前　<9:30>
　フィニッシュ：札幌市 真駒内公園

■ **9月3日(土)最終表彰式**　札幌市南区 アパホテル&リゾート札幌　<18:00>

Ⓢ スタート／START
Ⓕ フィニッシュ／FINISH
ITT 個人タイムトライアル／INDIVIDUAL TIME TRIAL
HS ホットスポット／HOT SPOT
山岳ポイント／KING OF MOUNTAINS
補給所／FEED ZONE

総走行距離
511km

国内で唯一、大自然の中を町から町へと公道を使用して巡る本格的な自転車ステージレース「ツール・ド・北海道」は、今年で30回目(第1回／1987年)を迎え、道央地域において9月1日(木)から3日(土)までの3日間、4ステージにわたるレースを開催した。道央地域での開催は、第27回大会以来3年振り5回目。

9月1日(木)の第1ステージは、第1回大会においてプロローグを開催した記念の場所、札幌市豊平区の豊平川河川敷地特設コース(南七条大橋付近)において個人タイムトライアルを実施した。同日午後からは第2ステージのロードレースを行い、札幌市南区のアパホテル&リゾート札幌前からスタート、定山渓から道道1号の朝里峠、国道393号の毛無峠を越え、赤井川村のキロロリゾート前を通過し、樽立トンネルを抜けて倶知安町公民館手前でフィニッシュする111㎞のコース。9月2日(金)の第3ステージは、倶知安町ヒラフスキー場前からスタートして、今大会最大の難所、新見峠(標高747m)を越えて蘭越町に入り、日本海に突き当たるまで一気に駆け下りた後、道道267号(磯谷蘭越線)を尻別川沿いに走って、ニセコ町から倶知安町に至る国道5号を疾走し、蝦夷富士の別名で知られる「羊蹄山」の麓を時計回りに一周してスタート地点の倶知安町ヒラフスキー場前に戻る180㎞。最終日、9月3日(土)の第4ステージは、倶知安町ヒラフスキー場前からスタートして、ニセコ町、真狩村、豊浦町を経て洞爺湖畔をほぼ半周し、壮瞥町から伊達市大滝区、さらに滝笛トンネルを抜けて支笏湖畔を疾走し、国道453号を北上して札幌市南区の真駒内公園でフィニッシュする大会史上最長の219㎞を走破した。

本大会には国内外から20チーム99人の選手が出場し、広大な北海道の自然環境の中、急峻な峠やニセコ連峰周辺など、変化に富んだコースを舞台に白熱したレースが展開された。

ツール・ド・北海道2016　事業報告書

●大会概要

公益財団法人 ツール・ド・北海道協会

1.事業開始	2016年5月10日（火） 札幌市中央区北5条西6丁目第二道通ビル2A会議室において「ツール・ド・北海道2016」実行委員会を開催							
2.事前会議	2016年8月31日（水） 役員打合せ会議、参加チーム受付、ライセンスコントロール、監督会議、審判合同会議、部門別会議、報道会議、ドライバーズミーティング							
3.大会期間	2016年9月1日（木）～9月3日（土） 3日間							
4.ステージレース	日程	日　程	競　技	経路・会場	距離（km）	道路別距離（km）		
		9月1日（木）	第1ステージ（個人タイムトライアル）	豊平川河川敷地	1	国道／197.7（38.7%）		
			第2ステージ（ロードレース）	札幌市～倶知安町	111	道道／239.7（46.9%）		
		9月2日（金）	第3ステージ（ロードレース）	倶知安町～倶知安町	180	市町村道／72.7（14.2%）		
		9月3日（土）	第4ステージ（ロードレース）	倶知安町～札幌市	219	その他／1.2（0.2%）		
	参加チーム（20）	海外チーム（5）	NIPPO-ヴィーニ ファンティーニ（イタリア）、ジェリーベリーP/B MAXXIS（アメリカ）、セントジョージメリダサイクリングチーム（オーストラリア）、ヴェロクラブ メンドリシオ（スイス）、SPIN11ダブリン（アイルランド）					
		国内チーム（15）	愛三工業レーシングチーム、ブリヂストンアンカーサイクリングチーム、群馬グリフィンレーシングチーム、キナンサイクリングチーム、マトリックスパワータグ、那須ブラーゼン、シマノレーシングチーム、チーム右京、宇都宮ブリッツェン、北海道地域選抜チーム、京都産業大学、鹿屋体育大学、日本大学、明治大学、北海道大学					
	● 参加選手　99名							
5.市民ロードレース	日程・参加者	日　程	競　技		経路・会場	距離（km）	申込者数（人）	参加者数（人）
		9月2日（金）	市民ロードレース	Aコース	倶知安町～倶知安町	124	141 / 452	125 / 393
				Bコース	倶知安町～倶知安町	92	196	165
				Cコース	蘭越町～倶知安町	44	115	103
6.関係市町村	総数	17市町（6市9町2村）						
	地元賞等	倶知安町（「ジャガイモ「男爵」10kg、倶知安のお酒、豪雪うどん） 札幌市（札幌円山動物園「白くまラーメン」、2017冬季アジア札幌大会公式マスコット「エゾモン」） 蘭越町（米「ななつぼし」） 【市民ロードレース】						
	アトラクション	倶知安町「くっちゃん羊蹄太鼓保存会」による演奏						
7.関係者	役員	大会役員 51名、実行委員・幹事 75名、競技役員 193名　　計 319名						
	交通整理等	警察官 142名、コース・会場警備員 539名、コース整理員 456名　　計 1,137名						
8.広報・安全対策	広報対策	ポスター 6,000枚、交通規制チラシ45,000枚、新聞（北海道新聞、読売、朝日）、日本道路交通情報センター、国道道路情報板、各種スポーツ雑誌等　テレビ放送 HTB（全道）10/6（木）、再放送10/8（土）　ホームページ						
	安全対策	交通規制・競技看板 390枚、セイフティーコン 1,506本、バリケード 2,474m						
9.観衆人員（概数）	60,750人							
10.印刷物	ガイドブック 10,000部、 テクニカルガイド500部、 事業報告書500部、 市民ロードレースプログラム700部							
11.車両、宿泊	車両使用台数133台（うち2輪車29台） 、 パトカー6台、 宿泊施設数3か所							
12.まとめ	ツール・ド・北海道2016は、今年で30回を迎え、道央地域を中心に9月1日（木）から3日（土）までの3日間にわたり、個人タイムトライアルとロードレースを開催した。 参加チームは、海外から5チーム、国内から学生を含め15チームの計20チーム、参加選手は99名。 大会初日は、第1ステージとして午前8時30分から豊平川右岸、「南7条大橋」たもと河川敷地において距離1kmの個人タイムトライアル競技を行った後、第2ステージとして、午後1時に札幌市南区川沿をスタート、定山渓を経て朝里峠を越え小樽市に至り、赤井川村の毛無峠を越え、倶知安町でフィニッシュする111km。二日目の第3ステージは、倶知安町ニセコヒラフスキー場前をスタート、新見峠を越え、一旦、日本海側に出た後、再び内陸に戻り、羊蹄山の外周を一周し、スタート地点に戻りフィニッシュする180km。三日目の第4ステージは、倶知安町ニセコヒラフスキー場前をスタート、五色温泉を通過した後、洞爺湖、支笏湖を経て、札幌市真駒内公園でフィニッシュする219kmのコースで総走行距離511km。 今回は、5年振りにタイムトライアルレースが行われたほか、ロードレース3ステージとも、先行グループと追走するメイン集団との駆け引きが繰り返されるなど、最後までスリリングで白熱したレース展開となった。 個人総合優勝を果たしたのは、増田成幸（宇都宮ブリッツェン）選手で、6年振りに日本人選手が優勝した。なお、増田成幸選手は個人総合山岳賞を併せて受賞した。 また、個人総合ポイント賞はデネグリ ピエール パオロ（NIPPOヴィーニファンティーニ）選手が受賞した。 団体総合時間賞はブリヂストンアンカーサイクリングチームで6年振りに優勝、さらに、本年新設したU26団体総合時間賞はヴェロクラブメンドリシオ（スイス）が受賞した。 本大会の開催を通じて選手の競技力向上、若手選手の人材育成はもとより、地域の振興・活性化、国際親善にも貢献した。また、同時開催した市民ロードレースと併せ、サイクルスポーツの魅力を広く一般に伝え、その普及・振興に大きく貢献した。							

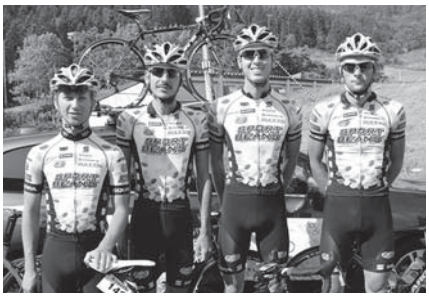
2016 エントリーチーム

■NIPPO・ヴィーニ ファンティーニ（イタリア）
NIPPO-VINI FANTINI (ITALY)

●選手／RIDER
スタキオッティ リカルド
STACCHIOTTI Riccardo
ベルラート ジャコーモ
BERLATO Giacomo
コッリ ダニエーレ
COLLI Daniele
デネグリ ピエールパオロ
DE NEGRI Pier Paolo
小石 祐馬
KOISHI Yuma

●監督／SPORTS DIRECTOR
大門 宏
DAIMON Hiroshi

■ジェリーベリー P/B MAXXIS (アメリカ)
JELLY BELLY P/B MAXXIS(UNITED STATES OF AMERICA)



●選手／RIDER
ブライコ アレクサンダー
BRAICO Alexander
プット クリストファー
PUTT Christpher
シーハン マイケル
SHEEHAN Michael
モートン ラクラン デイヴィッド
MORTON Lachlan David

●監督／SPORTS DIRECTOR
ライス マシュー
RICE Matthew

■セントジョージ メリダ サイクリングチーム (オーストラリア)
ST.GEORGE MERIDA CYCLING TEAM(AUSTRALIA)

●選手／RIDER
ダットン ジェイ
DUTTON Jay
ボネロ ダニエル
BONELLO Daniel
ウッズ ニコラス
WOODS Nicholas
シャープ パトリック
SHARPE Patrick
デヴィース ジョーダン
DAVIES Jordan

●監督／SPORTS DIRECTOR
ボイス スチュアート
BOYCE Stuart

■ヴェロクラブ メンドリシオ (スイス)
VELO CLUB MENDRISIO(SWITZERLAND)

●選手／RIDER
バディラッティ マッテオ
BADILATTI Matteo
カイローリ ルカ
CAIROLI Luca
ニップ ニールス
KNIPP Niels
リナルディ ニコラス
RINALDI Nicholas
ティエリー シリル
THIERY Cyrille

●監督／SPORTS DIRECTOR
ニコレッティ ダリオ
NICOLLETTI Dario

■SPIN 11 ダブリン (アイルランド)
SPIN 11 DUBLIN(IRELAND)

●選手／RIDER
マックグリンチー クリストファー
McGLINCHEY Christoper
フィーリー ダラ
FEELEY Daire
マックローリン ローナン
McLAUGHLIN Ronan
オマホニー ダーラー
O'MAHONY Darragh
マッコーリー クレイグ
McAULEY Craig

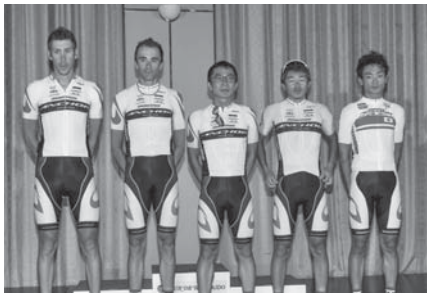
●監督／SPORTS DIRECTOR
コナトン ブライアン
CONNAUGHTON Brian

■愛三工業レーシングチーム
AISAN RACING TEAM

●選手／RIDER
伊藤 雅和
ITO Masakazu
早川 朋宏
HAYAKAWA Tomohiro
中根 英登
NAKANE Hideto
小森 亮平
KOMORI Ryohei
原田 裕成
HARADA Hiroaki

●監督／SPORTS DIRECTOR
西谷 泰治
NISHITANI Taiji

■ブリヂストンアンカーサイクリングチーム
BRIDGESTONE ANCHOR CYCLING TEAM



●選手／RIDER
ルバ トマ
LEBAS Thomas
モニエ ダミアン
MONIER Damien
初山 翔
HATSUYAMA Sho
鈴木 龍
SUZUKI Ryu
西薗 良太
NISHIZONO Ryota

●監督／SPORTS DIRECTOR
水谷 壮宏
MIZUTANI Takehiro

■群馬グリフィンレーシングチーム
GUNMA GRIFIN RACING TEAM

●選手／RIDER
狩野 智也
KANO Tomoya
管 洋介
SUGA Yosuke
倉林 巧和
KURABAYASHI Takuto
長沼 隆行
NAGANUMA Takayuki
杉野 元基
SUGINO Genki

●監督／SPORTS DIRECTOR
室岡 誠
MUROOKA Makoto

■キナンサイクリングチーム
KINAN CYCLING TEAM

●選手／RIDER
クロフォード ジャイ
CRAWFORD Jai
ガルシア アンブロア リカルド
GARCIA AMBROA Ricardo
伊丹 健治
ITAMI Kenji
野中 竜馬
NONAKA Ryoma
阿曽 圭佑
ASO Keisuke

●監督／SPORTS DIRECTOR
石田 哲也
ISHIDA Tetsuya

■マトリックスパワータグ
MATRIX POWERTAG

●選手／RIDER
トリビオ ホセ ヴィセンテ
TORIBIO ALCOLEA Jose Vicente
フェルナンデス カサソラ アイラン
FERNANDEZ CASASOLA Airan
佐野 淳哉
SANO Junya
土井 雪広
DOI Yukihiro
吉田 隼人
YOSHIDA Hayato

●監督／SPORTS DIRECTOR
安原 昌弘
YASUHARA Masahiro

2016 エントリーチーム

■那須ブラーゼン
NASU BLASEN

●選手／RIDER
吉岡 直哉
YOSHIOKA Naoya
水野 恭兵
MIZUNO Kyohei
下島 将輝
SHIMOJIMA Masaki
西尾 勇人
NISHIO Hayato
高木 三千成
TAKAGI Michinari

●監督／SPORTS DIRECTOR
清水 良行
SHIMIZU Yoshiyuki

■シマノレーシングチーム
SHIMANO RACING TEAM

●選手／RIDER
入部 正太朗
IRIBE Shotaro
木村 圭佑
KIMURA Keisuke
小橋 勇利
KOBASHI Yuri
湊 諒
MINATO Ryo
西村 大輝
NISHIMURA Hiroki

●監督／SPORTS DIRECTOR
野寺 秀徳
NODERA Hidenori

■チーム右京
TEAM UKYO

●選手／RIDER
畑中 勇介
HATANAKA Yusuke
平井 栄一
HIRAI Eiichi
住吉 宏太
SUMIYOSHI Kota
プラデス ベンジャミン
PRADES Benjamin
アベラストゥリ イザガ ジョン
ABERASTURI IZAGA Jon

●監督／SPORTS DIRECTOR
桑原 忠彦
KUWABARA Tadahiko

■宇都宮ブリッツェン
UTSUNOMIYA BLITZEN

●選手／RIDER
阿部 嵩之
ABE Takayuki
増田 成幸
MASUDA Nariyuki
鈴木 譲
SUZUKI Yuzuru
大久保 陣
OKUBO Jin
堀 孝明
HORI Takaaki

●監督／SPORTS DIRECTOR
清水 裕輔
SHIMIZU Yusuke

■北海道地域選抜
SELECTED HOKKAIDO

●選手／RIDER
熊坂 和也
KUMASAKA Kazuya
中川 拳
NAKAGAWA Ken
佐野 千尋
SANO Chihiro
菅原 勇人
SUGAWARA Hayato
三輪 俊史
MIWA Toshifumi

●監督／SPORTS DIRECTOR
坂上 信也
SAKAGAMI Shinya

■京都産業大学
KYOTO SANGYO UNIVERSITY

●選手／RIDER
安田 京介
YASUDA Kyosuke
間瀬 勇毅
MASE Yuki
須堯 元春
SUGYO Motoharu
藤田 俊輔
FUJITA Shunsuke
松下 綾馬
MATSUSHITA Ryoma

●監督／SPORTS DIRECTOR
山岸 正教
YAMAGISHI Masanori

■鹿屋体育大学
NATIONAL INSTITUTE OF FITNESS & SPORTS in KANOYA

●選手／RIDER
徳田 優
TOKUDA Suguru
山本 大喜
YAMAMOTO Masaki
黒枝 咲哉
KURODA Saya
冨尾 大地
TOMIO Daichi
石井 駿平
ISHII Shunpei

●監督／SPORTS DIRECTOR
脇野 栄治
WAKINO Eiji

■日本大学
NIHON UNIVERSITY

●選手／RIDER
吉田 悠人
YOSHIDA Yuto
大浦 尭
OURA Gyo
岡本 隼
OKAMOTO Hayato
小嶋 健太
KOJIMA Kenta
武山 晃輔
TAKEYAMA Kosuke

●監督／SPORTS DIRECTOR
井上 由大
INOUE Yoshihiro

■明治大学
MEIJI UNIVERSITY

●選手／RIDER
小林 和希
KOBAYASHI Kazuki
眞砂 英作
MASAGO Eisaku
松本 祐典
MATSUMOTO Yusuke
隅園 郷史
KUMAZAWA Satoshi
竹村 拓
TAKEMURA Taku

●監督／SPORTS DIRECTOR
本間 滋
HONMA Shigeru

■北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY

●選手／RIDER
樋口 亜門
HIGUCHI Amon
長澤 優樹
NAGASAWA Yuki
三浦 友視
MIURA Tomomi
清水 優
SHIMIZU Yu
木村 祐己
KIMURA Yuki

●監督／SPORTS DIRECTOR
村木 泰輔
MURAKI Taisuke

2016 出発式
STARTING CEREMONY

9/1（木）札幌市豊平川河川敷地特設会場

９月１日午前８時から札幌市豊平区の豊平川河川敷地において出発式を行い、ツール・ド・北海道２０１６が開幕した。海外から５チーム、国内から１５チーム、合せて２０チーム計９９人の選手が参加して競技を開始した。

出発式に臨む選手たち

ＭＣ

主催者挨拶
山本隆幸 大会長

ロヒナヴィ ナタポン　チーフコミセール

第1ステージ

Stage 1

STAGE 1
札幌市
Sapporo City

9/1 Thu.　Start 8:30
1km 個人タイムトライアル　札幌市豊平川河川敷地

台風一過の青空が広がる豊平川河川敷地において、出発式に引続き第１ステージの個人タイムトライアルが行われ９９人の選手が１分間隔で出走し個人のベストタイムを競った。

序盤に吉田（マトリックス）が1分16秒56で暫定１位に立ちしばらく更新されない状況が続いたが、向かい風が強い中58番目にスタートしたアベラストゥリ（チーム右京）が、1分14秒16のベストタイムを叩き出しトップに躍り出た。その後出走した有力選手の記録更新はならず、そのままアベラストゥリがステージ優勝してマラカイトグリーンのリーダージャージを獲得した。

スターター
山本隆幸 大会長

スタート地点

レース解説者
第１回大会総合優勝　高橋松吉さん（向って左）
第８回大会総合優勝　大野直志さん（中央）

激走する選手

観客の声援を受けて力走する選手

ベストタイムでフィニッシュする
アベラストゥリ イザガ ジョン（チーム右京）

個人区間・総合時間　１位
アベラストゥリ イザガ ジョン（チーム右京）

Stage１　競技結果

■個人区間順位
1位　アベラストゥリ イザガ ジョン(チーム右京) 1'14"16
2位　ティエリー シリル(ヴェロクラブ メンドリシオ)
3位　スタキオッティ リカルド(NIPPO-ヴィーニ ファンティーニ)

■個人総合時間順位
1位　アベラストゥリ イザガ ジョン(チーム右京) 1'14"
2位　ティエリー シリル(ヴェロクラブ メンドリシオ)
3位　スタキオッティ リカルド(NIPPO-ヴィーニファンティーニ)

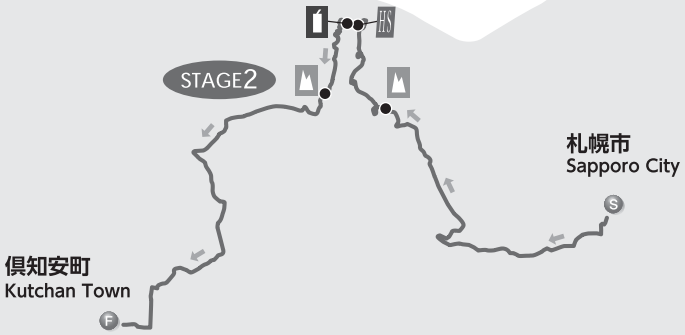
■個人総合ポイント順位
1位　アベラストゥリ イザガ ジョン(チーム右京)

第2ステージ

Stage 2

9/1 Thu　Start 13:00
111km　Road Race

札幌市（アパホテル前）→小樽市
→赤井川村→倶知安町（公民館手前）



■レースの概要

午前の個人タイムトライアルに続き、午後からはロードレース。札幌市南区のアパホテル＆リゾート札幌前から午後１時に99人がスタート、朝里峠、毛無峠を越えて倶知安町公民館手前までの実距離108.1kmのレース。

3.1kmのパレードを終え午後１時７分正式スタート。序盤でボネロ(セントジョージ　メリダ)がアタックしメイン集団とのタイムギャップは20秒。ルバ(ブリヂストン)、増田(宇都宮ブリッツェン)、西薗(ブリヂストン)が追走、先頭にジョインして先頭は４名。一回目の朝里峠KOMは、１位増田、２位ルバ、３位ボネロの順。また、望洋台大橋先HSの中間スプリント結果は、１位プラデス(チーム右京)、２位　増田、３位山本（鹿屋体大）の順で通過、この時点で先頭からセカンド15人まで2分40秒、メイン集団まで5分のタイムギャップ。二回目の毛無峠先KOMでは１位増田、２位ルバ、３位ボネロの順で通過したが、その直後に増田が単独でアタック。先頭で逃げる増田はペースを落とさず、残り１kmをトップで通過、続いてセカンド14名も通過したがタイムギャップは50秒。先頭とメイン集団とは７分のタイムギャップ。結局、増田はこの差をキープして倶知安町公民館手前を一着でフィニッシュ、大差をつけてステージ優勝した。２位モニエ(ブリヂストン)、３位鈴木(宇都宮ブリッツェン)。増田は個人総合時間と個人総合山岳賞でも首位、個人総合ポイント賞はティエリー(ヴェロクラブ　メンドリシオ)が首位に立ち、それぞれリーダージャージを獲得した。（完走８７人。）

スタート前に激励を受けるリーダー

地元チームの応援団

スターター
石川 敏也 札幌市スポーツ局長

アパホテル＆リゾート札幌前スタート

沿道からの大応援（藻岩小学校前）

ＫＯＭ　朝里峠トンネル手前（35.5km）
1位通過　増田 成幸（宇都宮ブリッツェン）

ＨＳ 小樽市望洋台大橋先（51.4km）
1位通過　プラデス ベンジャミン（チーム右京）

ＫＯＭ　毛無峠先（65.4㎞）
1位通過　増田 成幸（宇都宮ブリッツェン）

フィニッシュ
増田 成幸（宇都宮ブリッツェン）

歓迎の挨拶
プレゼンター　西江 栄二 倶知安町長

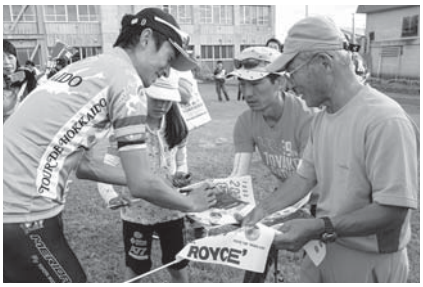
個人区間順位１位　増田 成幸（宇都宮ブリッツェン）
２位　モニエ ダミアン（ブリヂストンアンカーサイクリングチーム）
３位　鈴木 譲（宇都宮ブリッツェン）

個人区間・総合山岳賞
１位　増田 成幸
（宇都宮ブリッツェン）

個人総合ポイント
１位　ティエリー シリル
（ヴェロクラブ メンドリシオ）

個人総合時間
１位　増田 成幸
（宇都宮ブリッツェン）

アシスタント
倶知安町観光協会　川名真美さん
倶知安町役場職員　瀧上由貴さん



ファンとの触れ合い

Stage２　競技結果

■個人区間順位
1位　増田 成幸(宇都宮ブリッツェン) 2:39′56″
2位　モニエ ダミアン(ブリヂストンアンカーサイクリングチーム)
3位　鈴木 譲(宇都宮ブリッツェン)

■個人区間・総合山岳賞順位
1位　増田 成幸(宇都宮ブリッツェン)

■個人総合時間順位
1位　増田 成幸(宇都宮ブリッツェン) 2:41′09″
2位　ティエリー シリル(ヴェロクラブ メンドリシオ)
3位　プラデス ベンジャミン(チーム右京)

■個人総合ポイント順位
1位　ティエリー シリル(ヴェロクラブ メンドリシオ)

第3ステージ

Stage 3

9/2 Fri　Start 9:30
180km　Road Race

倶知安町（ヒラフスキー場前）→共和町→蘭越町→ニセコ町→倶知安町→京極町→喜茂別町→真狩村→ニセコ町→倶知安町（ヒラフスキー場前）

■レースの概要

第３ステージは、ヒラフスキー場前発着の実距離177.2kmのレース。午前9時30分、20チーム87人がスタート。最初の逃げが決まったのは15㎞地点、木村（シマノ）と野中（キナン）が逃げてニセコパノラマラインを上って行く。その後メイン集団からダットン(セントジョージ メリダ)、フィーリー(SPIN 11)、さらにブライコ(ジェリーベリー)が追走。新見峠KOMでは、ブライコ、ダットン、フィーリー、木村、野中の順で通過。KOM後の下りで選手がばらけ、先頭はメイン集団に吸収され直後に４人がアタック。先頭４人は、佐野(マトリックス)、早川(愛三工業)、阿曽(キナン)、山本(鹿屋体大)。127.5㎞地点の倶知安町HSでは、佐野がトップ通過、早川、山本の順で続く。朝、綺麗に頂上まで見えていた羊蹄山もHS地点からの山頂は雲に隠れる中、メイン集団の猛追によりタイムギャップは徐々に縮まり、残り２㎞で先頭とのタイムギャップは５秒。メイン集団はラスト１㎞で全ての逃げを吸収し、ひらふ坂600mの登り坂スプリント勝負となった。ゴールスプリントを制したNIPPOのデネグリがステージ優勝、総合２位に浮上した。個人総合時間賞と個人総合山岳賞は増田（宇都宮ブリッツェン）がリーダージャージを守り、個人総合ポイント賞はデネグリがリーダージャージを獲得した。（完走７８人）

先頭に立つ各リーダー

スターター
西江 栄二 倶知安町長

第３ステージスタート

羊蹄山を背に６㎞付近を走るメイン集団

蘭越町港町（68㎞）付近を走るメイン集団

倶知安町ＨＳ　羊蹄山蕎麦店前

沿道からの応援（京極町）

フィニッシュ　デネクリ ピエールパオロ
（NIPPO-ヴィーニ ファンティーニ）

くっちゃん羊蹄太鼓保存会「鼓流」の皆さん

歓迎の挨拶
プレゼンター　西江 栄二 倶知安町長

アシスタント
ニセコプロモーションボード　谷 三佐生さん
倶知安町役場職員　花井 多恵さん

個人区間順位１位　デネグリ ピエールパオロ（NIPPO-ヴィーニ ファンティーニ）
２位　ガルシア アンブロア リカルド（キナンサイクリングチーム）
３位　中根 英登（愛三工業レーシングチーム）

個人区間山岳賞
１位　ブライコ アレクサンダー
（ジェリーベリー P/B MAXXIS）

個人総合山岳賞
１位　増田 成幸
（宇都宮ブリッツェン）

個人総合ポイント
１位　デネグリ ピエールパオロ
（NIPPO-ヴィーニ ファンティーニ）

個人総合時間
１位　増田 成幸
（宇都宮ブリッツェン）

Stage３　競技結果

■個人区間順位
1位　デネグリ ピエールパオロ(NIPPO-ヴィーニ ファンティーニ) 4:34'42"
2位　ガルシア アンブロア リカルド(キナンサイクリングチーム)
3位　中根 英登(愛三工業レーシングチーム)

■個人区間山岳賞順位
1位　ブライコ アレクサンダー(ジェリーベリー P/B MAXXIS)

■個人総合時間順位
1位　増田 成幸(宇都宮ブリッツェン) 7:16'05"
2位　デネグリ ピエールパオロ(NIPPO-ヴィーニ ファンティーニ)
3位　ガルシア アンブロア リカルド(キナンサイクリングチーム)

■個人総合ポイント順位
1位　デネグリ ピエールパオロ(NIPPO-ヴィーニ ファンティーニ)

■個人総合山岳賞順位
1位　増田 成幸(宇都宮ブリッツェン)

第4ステージ

Stage 4

9/3 Sat　Start 9:30
219km　Road Race

倶知安町（ヒラフスキー場前）→蘭越町→ニセコ町→真狩村→豊浦町→洞爺湖町→壮瞥町→伊達市→千歳市→苫小牧市→千歳市→恵庭市→札幌市（真駒内公園）

■レースの概要

午前9時30分定刻スタートするも、プット(ジェリーベリー)のメカニックトラブルにより予定していた正式スタート地点より３㎞先での正式スタートとなった。序盤の17.1㎞地点で一回目の倶知安町KOMをブライコ(ジェリーベリー)が1位通過、続いて増田(宇都宮ブリッツェン)、ルバ(ブリヂストン)の順。KOMを終え時速約80㎞で五色温泉からニセコ町へと下る。真狩村に入って間もなく新たに５名の逃げが発生、トリビオ(マトリックス)、西薗(ブリヂストン)、木村(シマノ)、吉岡(那須ブラーゼン)、モートン(ジェリーベリー)の５人。真狩村HSでは1位吉岡、2位西薗、3位トリビオ。レースは中盤に入り洞爺湖町から壮瞥町に至るも先頭５人が逃げてメイン集団が追走する展開が続く。壮瞥町でのタイムギャップは11分15秒まで広がり、176㎞地点の支笏湖温泉付近においても先頭5人は変わらず。二回目の千歳・恵庭境界KOMでは、モートン、西薗、トリビオの順で通過。いよいよ札幌市に入ると先頭とメイン集団とのタイムギャップは1分10秒まで縮まりフィニッシュ地点に向かう。先頭もメイン集団もラスト15㎞地点を時速約80㎞で下り、真駒内公園でのクライマックスを迎える展開となった。真駒内公園に入って先頭５人によるゴールスプリントはモートンが制してステージ優勝。個人総合時間は、増田が27秒のタイム差を守って初優勝し、日本人選手として６年振りのチャンピオン誕生となった。個人総合ポイント賞はデネグリが、個人総合山岳賞は増田が獲得。団体総合時間ではブリヂストンが、U26団体総合時間ではヴェロクラブ メンドリシオが優勝した。

先頭に立つ各リーダー

スターター
西江 栄二 倶知安町長

第４ステージスタート

スタート地点の「ひらふ坂」を下る集団

倶知安町・ニセコ町境界
ＫＯＭ（17.1㎞地点）

１位通過 ブライコ アレクサンダー
（ジェリーベリー P/B MAXXIS）

ニセコ大橋を渡るメイン集団

沿道からの応援（支笏湖畔）

支笏湖畔を疾走するメイン集団

ゴールスプリント勝負

ステージ優勝　モートン ラクラン ディヴィッド
（ジェリーベリー P/B MAXXIS）

個人総合時間賞を獲得しファンに応える
増田 成幸（宇都宮ブリッツェン）

Stage 4　競技結果

■個人区間順位
1位　モートン ラクラン ディヴィッド(ジェリーベリー P/B MAXXIS) 5:33'44"
2位　トリビオ ホセ ヴィセンテ(マトリックスパワータグ)
3位　西薗 良太(ブリヂストンアンカーサイクリングチーム)

■個人区間山岳賞順位
1位　ブライコ アレクサンダー（ジェリーベリー P/B MAXXIS）

プレゼンター
町田 隆敏 札幌市副市長

個人区間順位 1位 モートン ラクラン ディヴィッド（ジェリーベリー P/B MAXXIS）
2位 トリビオ ホセ ヴィセンテ(マトリックスパワータグ)
3位 西薗 良太(ブリヂストンアンカーサイクリングチーム)

個人区間山岳賞
1位　ブライコ アレクサンダー
（ジェリーベリー P/B MAXXIS）

2016 最終表彰式

OVERALL AWARDS CEREMONY

9/3(土) 札幌市南区アパホテル&リゾート札幌特設会場

９月３日（土）午後６時からツール・ド・北海道2016の最終表彰式が、国土交通省、北海道、札幌市などから来賓を迎え、札幌市南区のアパホテル＆リゾート札幌特設会場で開催された。

今大会の成績は個人総合時間賞は宇都宮ブリッツェンの増田成幸が、個人総合ポイント賞はNIPPO-ヴィーニファンティーニのデネグリ ピエールパオロ、個人総合山岳賞は、宇都宮ブリッツエンの増田成幸が制し、それぞれチャンピオンジャージを獲得した。団体総合時間賞は、ブリヂストンアンカーサイクリングチームが６年振りに、そして今大会新設したU26団体総合時間賞はスイスのヴェロクラブ メンドリシオが獲得した。

表彰式では団体総合時間賞が對馬一修国土交通省北海道局官房審議官から、U26団体総合時間賞が橋本聖子参議院議員（公益財団法人日本自転車競技連盟会長）から、個人総合山岳賞が町田隆敏札幌市副市長から、個人総合ポイント賞が佐藤哲夫北海道環境生活部文化・スポーツ局長からそれぞれ授与された。

また、最高の栄誉とされる個人総合時間賞と北海道カップは、綿貫民輔大会総裁から増田成幸選手（宇都宮ブリッツェン）に贈られた。

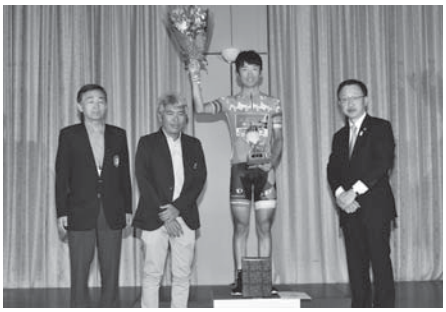
MC

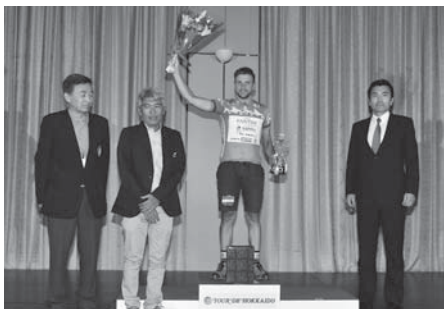
来賓

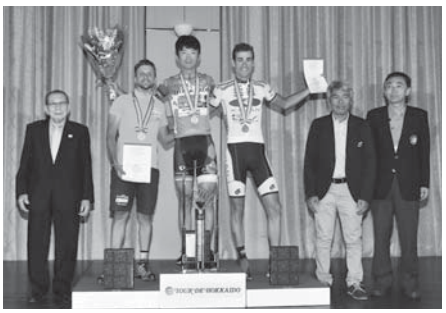
大会役員

団体総合時間賞１位
ブリヂストンアンカーサイクリングチーム

U26団体総合時間賞１位
ヴェロクラブ メンドリシオ


個人総合山岳賞１位
増田 成幸（宇都宮ブリッツェン）


個人総合ポイント賞１位
デネグリ ピエールパオロ
（NIPPO-ヴィーニ ファンティーニ）


個人総合時間賞
１位　増田 成幸（宇都宮ブリッツェン）
２位　デネグリ ピエールパオロ（NIPPO-ヴィーニ ファンティーニ）
３位　ガルシア アンブロア リカルド（キナンサイクリングチーム）

ロヒナヴィ ナタポン
チーフコミセール挨拶

個人総合優勝
増田 成幸（宇都宮ブリッツェン）

総合（最終）成績

個人総合時間賞順位

1位　増田 成幸(宇都宮ブリッツェン) 12:50′23″
2位　デネグリ ピエールパオロ(NIPPO-ヴィーニファンティーニ)
3位　ガルシア アンブロア リカルド(キナンサイクリングチーム)
4位　中根 英登(愛三工業レーシングチーム)
5位　ティエリー シリル(ヴェロクラブ メンドリシオ)
6位　吉岡 直哉(那須ブラーゼン)
7位　クロフォード ジャイ(キナンサイクリングチーム)
8位　プラデス ベンジャミン(チーム右京)
9位　鈴木 譲(宇都宮ブリッツェン)
10位　ルバ トマ(ブリヂストンアンカーサイクリングチーム)

個人総合ポイント賞順位

1位　デネグリ ピエールパオロ(NIPPO-ヴィーニファンティーニ)
2位　スタキオッティ リカルド(NIPPO-ヴィーニファンティーニ)
3位　ティエリー シリル(ヴェロクラブ メンドリシオ)

個人総合山岳賞順位

1位　増田 成幸(宇都宮ブリッツェン)
2位　ブライコ アレクサンダー(ジェリーベリー P/B MAXXIS)
3位　ルバ トマ(ブリヂストンアンカーサイクリングチーム)

団体総合時間賞順位

1位　ブリヂストンアンカーサイクリングチーム 38:39′38″
2位　ヴェロクラブ メンドリシオ
3位　キナンサイクリングチーム

U26団体総合時間賞順位

1位　ヴェロクラブ メンドリシオ 38:54′40″
2位　シマノレーシングチーム
3位　京都産業大学

TOUR DE HOKKAIDO

ツール・ド・北海道ゆかりの方々からのコメント披露

主催者挨拶　綿貫民輔大会総裁
（ツール・ド・北海道協会会長）

第１回大会優勝者
高橋 松吉 氏

第８回大会優勝者
大野 直志 氏

第１回大会審判員
坂本 陽一 氏

第１回大会審判員
小野 盛秀 氏

最終表彰式終了後、同会場において「ツール・ド・北海道30周年記念式典」を開催しました。

式典では、歴代の優勝者などから、ツール・ド・北海道にコメントが寄せられたほか、第1回大会からの懐かしいシーンがビデオ放映され、30年の歴史を振り返るとともに今後の大会の成功を祈念しました。

最後に山本隆幸大会長から、ツール・ド・フランスと全く同じルールで町から町を一筆書きで繋ぐ日本最初のステージレースとして1987年に第1回大会が開催され、爾来30年、チーム・選手はもとより、国、北海道、市町村、警察をはじめとする関係行政機関やスポーツ団体、たくさんの企業などからご支援をいただいて続けてこられたことに対して感謝が述べられ、記念式典を終えました。

主催者謝辞　山本隆幸大会長
（ツール・ド・北海道協会理事長）

2016 最終成績

TOUR DE HOKKAIDO 2016

FINAL RESULTS

個人総合時間賞

Pl.	Num	選手名	チーム名	Total	Behind
1	72	増 田 成 幸	宇都宮ブリッツェン	12:50'23"	00'00"
2	4	デネグリ ピエールパオロ	NIPPO-ヴィーニ ファンティーニ	12:50'50"	00'27"
3	62	ガルシア アンブロア リカルド	キナンサイクリングチーム	12:50'50"	00'27"
4	53	中 根 英 登	愛三工業レーシングチーム	12:50'52"	00'29"
5	165	ティエリー シリル	ヴェロクラブ メンドリシオ	12:50'53"	00'30"
6	121	吉 岡 直 哉	那須ブラーゼン	12:50'53"	00'30"
7	61	クロフォード ジャイ	キナンサイクリングチーム	12:50'56"	00'33"
8	14	プラデス ベンジャミン	チーム右京	12:50'58"	00'35"
9	73	鈴 木 譲	宇都宮ブリッツェン	12:51'03"	00'40"
10	31	ルバ トマ	ブリヂストンアンカーサイクリングチーム	12:51'08"	00'45"
11	161	バディラッティ マッテオ	ヴェロクラブ メンドリシオ	12:51'13"	00'50"
12	32	モニエ ダミアン	ブリヂストンアンカーサイクリングチーム	12:51'14"	00'51"
13	22	フェルナンデス カサソラ アイラン	マトリックスパワータグ	12:54'24"	04'01"
14	42	木 村 圭 佑	シマノレーシングチーム	12:56'50"	06'27"
15	1	スタキオッティ リカルド	NIPPO-ヴィーニ ファンティーニ	12:56'52"	06'29"
16	133	岡 本 隼	日本大学	12:56'56"	06'33"
17	21	トリビオ ホセ ヴィセンテ	マトリックスパワータグ	12:56'58"	06'35"
18	192	間 瀬 勇 毅	京都産業大学	12:57'10"	06'47"
19	35	西 薗 良 太	ブリヂストンアンカーサイクリングチーム	12:57'13"	06'50"
20	51	伊 藤 雅 和	愛三工業レーシングチーム	12:57'26"	07'03"
21	144	モートン ラクラン デイヴィッド	ジェリーベリー P/B MAXXIS	12:57'28"	07'05"
22	172	フィーリー ダラ	SPIN 11 ダブリン	12:57'30"	07'07"
23	12	平 井 栄 一	チーム右京	12:57'37"	07'14"
24	182	中 川 拳	北海道地域選抜	12:57'41"	07'18"
25	162	カイローリ ルカ	ヴェロクラブ メンドリシオ	12:57'43"	07'20"
26	34	鈴 木 龍	ブリヂストンアンカーサイクリングチーム	12:57'48"	07'25"
27	15	アベラストゥリ イザガ ジョン	チーム右京	12:57'51"	07'28"
28	152	ボネロ ダニエル	セントジョージ メリダ サイクリングチーム	12:58'06"	07'43"
29	191	安 田 京 介	京都産業大学	12:58'17"	07'54"
30	23	佐 野 淳 哉	マトリックスパワータグ	12:58'23"	08'00"
31	143	シーハン マイケル	ジェリーベリー P/B MAXXIS	12:58'37"	08'14"
32	5	小 石 祐 馬	NIPPO-ヴィーニ ファンティーニ	12:59'42"	09'19"
33	11	畑 中 勇 介	チーム右京	13:00'09"	09'46"
34	173	マックローリン ローナン	SPIN 11 ダブリン	13:00'10"	09'47"
35	141	ブライコ アレクサンダー	ジェリーベリー P/B MAXXIS	13:00'19"	09'56"
36	33	初 山 翔	ブリヂストンアンカーサイクリングチーム	13:00'52"	10'29"
37	64	野 中 竜 馬	キナンサイクリングチーム	13:01'55"	11'32"
38	41	入 部 正太朗	シマノレーシングチーム	13:02'30"	12'07"
39	24	土 井 雪 広	マトリックスパワータグ	13:02'47"	12'24"
40	101	小 林 和 希	明治大学	13:03'49"	13'26"
41	131	吉 田 悠 人	日本大学	13:03'51"	13'28"
42	85	石 井 駿 平	鹿屋体育大学	13:03'55"	13'32"
43	174	オマホニー ダーラー	SPIN 11 ダブリン	13:04'08"	13'45"
44	91	狩 野 智 也	群馬グリフィンレーシングチーム	13:04'31"	14'08"
45	45	西 村 大 輝	シマノレーシングチーム	13:04'31"	14'08"
46	52	早 川 朋 宏	愛三工業レーシングチーム	13:04'39"	14'16"
47	154	シャープ パトリック	セントジョージ メリダ サイクリングチーム	13:05'17"	14'54"
48	183	佐 野 千 尋	北海道地域選抜	13:05'34"	15'11"
49	125	高 木 三千成	那須ブラーゼン	13:05'39"	15'16"
50	164	リナルディ ニコラス	ヴェロクラブ メンドリシオ	13:05'45"	15'22"
51	153	ウッズ ニコラス	セントジョージ メリダ サイクリングチーム	13:06'08"	15'45"
52	81	徳 田 優	鹿屋体育大学	13:06'49"	16'26"
53	75	堀 孝 明	宇都宮ブリッツェン	13:06'56"	16'33"
54	83	黒 枝 咲 哉	鹿屋体育大学	13:07'03"	16'40"
55	43	小 橋 勇 利	シマノレーシングチーム	13:07'45"	17'22"
56	44	湊 諒	シマノレーシングチーム	13:08'50"	18'27"
57	194	藤 田 俊 輔	京都産業大学	13:09'52"	19'29"
58	84	冨 尾 大 地	鹿屋体育大学	13:10'40"	20'17"
59	82	山 本 大 喜	鹿屋体育大学	13:11'04"	20'41"
60	151	ダットン ジェイ	セントジョージ メリダ サイクリングチーム	13:11'34"	21'11"
61	3	コッリ ダニエーレ	NIPPO-ヴィーニ ファンティーニ	13:12'54"	22'31"
62	13	住 吉 宏 太	チーム右京	13:13'18"	22'55"
63	132	大 浦 尭	日本大学	13:13'54"	23'31"
64	185	三 輪 俊 史	北海道地域選抜	13:15'00"	24'37"
65	184	菅 原 勇 人	北海道地域選抜	13:17'03"	26'40"
66	181	熊 坂 和 也	北海道地域選抜	13:17'04"	26'41"
67	95	杉 野 元 基	群馬グリフィンレーシングチーム	13:24'59"	34'36"
68	114	清 水 優	北海道大学	13:25'20"	34'57"

■個人総合ポイント賞

Pl.	Num	選手名	チーム名	Total
1	4	デネグリ ピエールパオロ	NIPPO-ヴィーニ ファンティーニ	39
2	1	スタキオッティ リカルド	NIPPO-ヴィーニ ファンティーニ	32
3	165	ティエリー シリル	ヴェロクラブ メンドリシオ	28
4	144	モートン ラクラン デイヴィッド	ジェリーベリー P/B MAXXIS	25
5	121	吉 岡 直 哉	那須ブラーゼン	22
6	21	トリビオ ホセ ヴィセンテ	マトリックスパワータグ	21
7	62	ガルシア アンブロア リカルド	キナンサイクリングチーム	20
8	53	中 根 英 登	愛三工業レーシングチーム	20
9	15	アベラストゥリ イザガ ジョン	チーム右京	19
10	23	佐 野 淳 哉	マトリックスパワータグ	19
11	35	西 薗 良 太	ブリヂストンアンカーサイクリングチーム	19
12	73	鈴 木 譲	宇都宮ブリッツェン	17
13	14	プラデス ベンジャミン	チーム右京	16
14	42	木 村 圭 佑	シマノレーシングチーム	14
15	133	岡 本 隼	日本大学	14
16	72	増 田 成 幸	宇都宮ブリッツェン	12
17	61	クロフォード ジャイ	キナンサイクリングチーム	11
18	34	鈴 木 龍	ブリヂストンアンカーサイクリングチーム	11
19	32	モニエ ダミアン	ブリヂストンアンカーサイクリングチーム	9
20	31	ルバ トマ	ブリヂストンアンカーサイクリングチーム	7
21	22	フェルナンデス カサソラ アイラン	マトリックスパワータグ	6
22	81	徳 田 優	鹿屋体育大学	5
23	192	間 瀬 勇 毅	京都産業大学	4
24	161	バディラッティ マッテオ	ヴェロクラブ メンドリシオ	3
25	141	ブライコ アレクサンダー	ジェリーベリー P/B MAXXIS	3
26	52	早 川 朋 宏	愛三工業レーシングチーム	3
27	83	黒 枝 咲 哉	鹿屋体育大学	3
28	172	フィーリー ダラ	SPIN 11 ダブリン	2
29	82	山 本 大 喜	鹿屋体育大学	2
30	11	畑 中 勇 介	チーム右京	1

■個人総合山岳賞

Pl.	Num	選手名	チーム名	Total
1	72	増 田 成 幸	宇都宮ブリッツェン	24
2	141	ブライコ アレクサンダー	ジェリーベリー P/B MAXXIS	20
3	31	ルバ トマ	ブリヂストンアンカーサイクリングチーム	17
4	151	ダットン ジェイ	セントジョージ メリダ サイクリングチーム	8
5	172	フィーリー ダラ	SPIN 11 ダブリン	6
6	152	ボネロ ダニエル	セントジョージ メリダ サイクリングチーム	6
7	144	モートン ラクラン デイヴィッド	ジェリーベリー P/B MAXXIS	5
8	62	ガルシア アンブロア リカルド	キナンサイクリングチーム	5
9	14	プラデス ベンジャミン	チーム右京	4
10	42	木 村 圭 佑	シマノレーシングチーム	4
11	4	デネグリ ピエールパオロ	NIPPO-ヴィーニ ファンティーニ	3
12	35	西 薗 良 太	ブリヂストンアンカーサイクリングチーム	3
13	64	野 中 竜 馬	キナンサイクリングチーム	3
14	32	モニエ ダミアン	ブリヂストンアンカーサイクリングチーム	2
15	21	トリビオ ホセ ヴィセンテ	マトリックスパワータグ	2
16	82	山 本 大 喜	鹿屋体育大学	2
17	121	吉 岡 直 哉	那須ブラーゼン	1

■団体総合時間賞

Pl.	チーム名	Total	Behind
1	ブリヂストンアンカーサイクリングチーム	38:39'38"	
2	ヴェロクラブ メンドリシオ	38:39'43"	0'05"
3	キナンサイクリングチーム	38:42'17"	2'39"
4	チーム右京	38:45'40"	6'02"
5	NIPPO-ヴィーニ ファンティーニ	38:47'29"	7'51"
6	宇都宮ブリッツェン	38:48'25"	8'47"
7	マトリックスパワータグ	38:49'29"	9'51"
8	愛三工業レーシングチーム	38:52'55"	13'17"
9	シマノレーシングチーム	38:55'56"	16'18"
10	ジェリーベリー P/B MAXXIS	38:56'30"	16'52"
11	SPIN 11 ダブリン	39:01'48"	22'10"
12	京都産業大学	39:04'11"	24'33"
13	セントジョージ メリダ サイクリングチーム	39:09'29"	29'51"
14	北海道地域選抜	39:10'45"	31'07"
15	日本大学	39:14'30"	34'52"
16	鹿屋体育大学	39:17'36"	37'58"

■U26団体総合時間賞

Pl.	チーム名	Total	Behind
1	ヴェロクラブ メンドリシオ	38:54'40"	
2	シマノレーシングチーム	38:59'29"	4'49"
3	京都産業大学	39:04'11"	9'31"
4	日本大学	39:14'30"	19'50"
5	鹿屋体育大学	39:17'36"	22'56"

2016

市民ロードレース

CITIZEN ROAD RACE

9/2 FRI

出走サインする選手

●Aコース　倶知安町(ヒラフスキー場前)→共和町→蘭越町→ニセコ町→倶知安町(ヒラフスキー場前)……124㎞

●Bコース　倶知安町(ヒラフスキー場前)→共和町→蘭越町→ニセコ町→倶知安町(ヒラフスキー場前)……　92㎞

開会

開会式に臨む選手たち

歓迎の挨拶
西江 栄二　倶知安町長

主催者挨拶
山本 隆幸　大会長

選手宣誓　ベン･カー選手
受け　山本 隆幸大会長

スターター
西江 栄二　倶知安町長

共和町を走る選手

●Cコース　蘭越町(小樽開建水防資材庫前)→ニセコ町→倶知安町(ヒラフスキー場前)……　44㎞

主催者挨拶　高松 泰
ツール･ド･北海道協会常務理事

歓迎の挨拶　首藤 一幸
蘭越町教育委員会教育長

選手宣誓　渡部 岳洋 選手

フィニッシュ（倶知安町ヒラフスキー場前）

表彰（Aコース）

表彰（Bコース）

表彰（Cコース）

表彰（一般女子の部）

表彰（山岳ロイズ賞）

成績一覧

コース別成績

	順位	ナンバー	氏名	都道府県	タイム	順位	ナンバー	氏名	都道府県	タイム	順位	ナンバー	氏名	都道府県	タイム
●Aコース	1	53	中尾 峻	神奈川県	3:43:37	2	12	今井 基裕	埼玉県	3:43:56	3	66	前田 充貴	京都府	3:45:45
●Bコース	1	379	松浦 耕介	京都府	3:02:02	2	403	甲髙 拓夢	岩手県	3:03:38	3	394	大羽 将司	群馬県	3:05:48
●Cコース	1	1402	古林 一夢	石川県	1:27:43	2	735	森田 琢也	北海道	1:29:08	3	1408	渡邊 諒馬	北海道	1:30:49

クラス別成績

	順位	ナンバー	氏名	都道府県	タイム	順位	ナンバー	氏名	都道府県	タイム	順位	ナンバー	氏名	都道府県	タイム
●JCF登録	1	53	中尾 峻	神奈川県	3:43:37	2	12	今井 基裕	埼玉県	3:43:56	3	66	前田 充貴	京都府	3:45:45
●上級者	1	252	池辺 刀那	北海道	3:51:26	2	249	西田 晃平	北海道	3:53:20	3	237	石村 展通	北海道	3:54:33
●中級者	1	379	松浦 耕介	京都府	3:02:.02	2	403	甲髙 拓夢	岩手県	3:03:38	3	394	大羽 将司	群馬県	3:05:48
●初級者 40歳未満	1	559	長沼 拳	北海道	3:10:15	2	543	松田 浩輔	北海道	3:13:37	3	540	臼井 一雅	北海道	3:17:09
●初級者 55歳未満	1	735	森田 琢也	北海道	1:29:08	2	704	森田 啓介	北海道	1:33:31	3	738	小川 宣幸	北海道	1:33:41
●初級者 55歳以上	1	920	中川 康博	北海道	1:32:59	2	924	濱田 力範	北海道	1:33:00	3	917	高松 敦志	北海道	1:33:22
●一般女子	1	1007	米田 和美	北海道	1:34:17	2	1005	角尾 恵	東京都	1:39:12	3	1002	芝田 祥子	北海道	1:46:09
●高校生男子	1	1104	小堀 敢太	北海道	3:10:14	2	1115	河佐 真義	北海道	3:10:52	3	1101	渡邉 太悟	北海道	3:11:13
●中学生男子	1	1402	古林 一夢	石川県	1:27:43	2	1408	渡邊 諒馬	北海道	1:30:49	3	1405	三村 光理	北海道	1:36:23
●中学生女子	1	1083	渡部 春雅	神奈川県	1:32:29										

山岳ロイズ賞

	順位	ナンバー	氏名	都道府県	順位	ナンバー	氏名	都道府県	順位	ナンバー	氏名	都道府県
●Aコース	1	12	今井 基裕	埼玉県	2	43	佐藤 秀和	埼玉県	3	23	小山田 智也	北海道
●Bコース	1	379	松浦 耕介	京都府	2	1115	河佐 真義	北海道	3	391	片岡 悠真	宮城県

ツール・ド・北海道2016　報道・広報-1

●ポスター

●ガイドブック

●HP　トップページ

ツール・ド・北海道2016　報道・広報-2

コース情報　　1/2 ページ

TOUR DE HOKKAIDO 2016

UCI ASIA TOUR

Home	コース情報	交通規制	チーム	市民レース概要	スポンサー
レース速報	リザルト	市民リザルト	写真	ガイドブック	事業報告

■コース情報

KEIRIN.JP　RINGRINGプロジェクト　スポーツくじ BIG　私たちはスポーツ振興くじ助成を受けています。

STAGE 1　STAGE 2　STAGE 3　STAGE 4

ツール・ド・北海道 2016　日程表

日付	ステージ	スタート	時間	フィニッシュ	予想時間	距離	表彰式
9月1日（木）	出発式	札幌市 豊平川河川敷地特設会場	8:00	—		—	
9月1日（木）	第1ステージ	札幌市 豊平川河川敷地	8:30	札幌市 豊平川河川敷地	10:10～10:15	1.0km	16:00
9月1日（木）	第2ステージ	札幌市 アパホテル＆リゾート札幌	13:00	倶知安町 公民館手前	15:46～15:55	111Km	16:15
9月2日（金）	第3ステージ	倶知安町 ヒラフスキー場前	9:30	倶知安町 ヒラフスキー場前	14:05～14:20	180Km	14:20
9月3日（土）	第4ステージ	倶知安町 ヒラフスキー場前	9:30	札幌市 真駒内公園	15:04～15:23	219km	18:00
9月3日（土）	最終表彰式	札幌市 アパホテル＆リゾート札幌 特設会場		—		—	18:20

ツール・ド・北海道2016コース図（GoogleMap）

ツール・ド・北海道2016コース図（全体）

ツール・ド・北海道

1987年10月に日本最初のステージレースとしてツール・ド・北海道大会が開催されてから今回で30回目を迎えました。第11回大会からは、国際自転車競技連合(UCI)の公認大会として承認され、国際大会としても20回目を迎え、いまや国内有数のステージレースになっております。ツール・ド・北海道には、海外からも多数のチームが参加を希望するなど定評ある大会となっており、いわば「ツール・ド・フランス」の日本版でもあります。

競技は1チーム5人のチーム成績と個人成績の両方を争うステージレースであり、海外、国内の各チームの選手は、団体優勝を狙うのは勿論、チームのエースに個人総合時間賞を獲得させようと、様々な作戦でレースを展開します。

また、多くのサイクリストが参加する市民ロードレースも同時開催し、地域の活性化を図るとともにこの大会を盛り上げています。

大会概要と日程

ツール・ド・北海道2016は、道央地域において9月1日(木)から3日(土)までの3日間で4ステージを開催します。

初日の9月1日(木)は、札幌市豊平区の「豊平川河川敷地特設会場(南七条大橋付近)」において出発式を行った後、第1ステージの個人タイムトライアルを行います。また、同日午後からは、第2ステージのロードレースを行います。札幌市南区の「アパホテル＆リゾート札幌前」からスタートし、定山渓、小樽市朝里川温泉街、赤井川村を経て倶知安町(公民館手前)でフィニッシュする111kmのコースです。

翌日、9月2日(金)の第3ステージは、倶知安町(ヒラフスキー場前)からスタートし、共和町、蘭越町、ニセコ町、京極町、真狩村などを経てスタート地点の倶知安町(ヒラフスキー場前)に戻ってフィニッシュする180kmのコースです。

そして最終日、9月3日(土)の第4ステージは、倶知安町(ヒラフスキー場前)からスタートして蘭越町、真狩村、洞爺湖町、千歳市、恵庭市などを経て札幌市南区の「真駒内公園(セキスイハイムスタジアム前)」でフィニッシュする219kmのロードレースを行い、全ての日程を終えます。国内では唯一、大自然の中を町から町へと公道を使用して巡る本格的な自転車ステージレースであり、3日間の総走行距離は511kmに及びます。

ステージレース

○開催期間
9月1日(木)から3日(土)までの3日間

○開始式
9月1日(木) 8時00分～8時15分
札幌市豊平区「豊平川河川敷地特設会場（南七条大橋付近）」

○各ステージの日程
第1ステージ（個人タイムトライアル） 9月1日(木)（1km）
第2ステージ（ロードレース） 9月1日(木)（111km）
札幌市南区(S:アパホテル＆リゾート札幌前)～小樽市～赤井川村～倶知安町 (F:倶知安町公民館手前)
第3ステージ（ロードレース） 9月2日(金)（180km）
倶知安町(S:ヒラフスキー場前)～共和町～蘭越町～ニセコ町～倶知安町～京極町～
喜茂別町～真狩村～ニセコ町～倶知安町(F:ヒラフスキー場前)
第4ステージ（ロードレース） 9月3日(土)（219km）
倶知安町(S:ヒラフスキー場前)～ニセコ町～蘭越町～ニセコ町～真狩村～豊浦町～洞爺湖町～
壮瞥町～伊達市～千歳市～苫小牧市～恵庭市～札幌市南区(F:真駒内公園セキスイハイムスタジアム前)

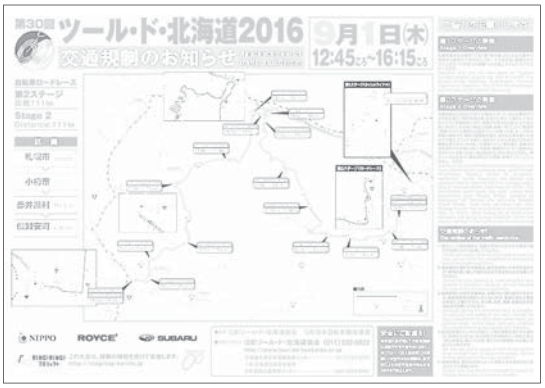
○出場予定チーム
海外及び国内から合計20チーム、100名の選手の出場を予定しています。

○表彰式
第1、第2ステージは第2ステージ終了後、倶知安町公民館前特設会場において、第3ステージは倶知安町ヒラフスキー場前特設会場においてフィニッシュ後に行います。
第4ステージは最終表彰式実施の日時、場所において、最終表彰式に先立ち行います。

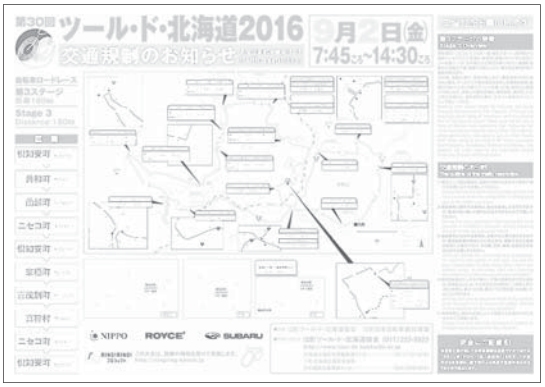
○最終表彰式
9月3日（土）18時00分～19時30分
札幌市南区「アパホテル＆リゾート札幌特設会場」

NIPPO　ROYCE'　SUBARU

●HP　コース情報



●交通規制広告-1



●交通規制広告-2

●交通規制広告-3

ツール・ド・北海道2016　報道・広報-3

5/10　2016実行委員会開催

スポーツ報知

2016年（平成28年）5月11日（水曜日）

道大学に出場枠

ツール・ド・北海道

国内最大級の自転車ロードレース「ツール・ド・北海道」の実行委員会は10日、札幌市内で2016年大会の概要を発表した。今年で30回目となる大会は、道央が舞台。国内外から20チームが参加し、9月1日から3日まで札幌、倶知安、ニセコなど計17市町村を駆けめぐる。

初日の第1ステージは札幌市内で1キロのタイムトライアルを行い、続く第2ステージでロードレースに突入。3日間の総走行距離は511キロとなる。実行委員会によると、今年は道内の大学にも出場枠を与え、北大＋道科学大の連合チームが出場予定。また、第3ステージが行われる2日は、市民ロードレースも開催される（6月から参加者募集）。

5/11　スポーツ報知

北海道新聞

2016年（平成28年）5月11日（水曜日）

ツール・ド・北海道2016 コース図

道央圏511キロ疾走

ツール・ド・北海道

国内有数の自転車ロードレース「ツール・ド・北海道2016」（ツール・ド・北海道協会、日本自転車競技連盟主催、北海道新聞社特別協力）の日程とコースが10日、発表された。9月1日からの3日間、国内外の20チームが札幌市や後志管内倶知安町など道央圏の17市町村を舞台に計511キロを走る。

30回の節目を迎える今大会は第1ステージでタイムトライアルが5年ぶりに復活。地元の若手選手育成を目的に北大と道科学大が連合チームで参戦する。

2日には市民ロードレースが倶知安町周辺で行われる。要項は今月下旬に同協会のホームページで発表し、6月1日から募集する。問い合わせは同協会☎011・222・5922へ。

9月1日開幕

大会日程とコース

▽9月1日　第1ステージ　タイムトライアル1キロ（札幌市豊平川河川敷）、第2ステージ111キロ（札幌市―小樽市―倶知安町）▽2日　第3ステージ180キロ（倶知安町発着）▽3日　第4ステージ219キロ（倶知安町―胆振管内洞爺湖町―札幌市）

5/11　北海道新聞

道新スポーツ

2016年（平成28年）5月11日（水曜日）

道央エリア511キロで熱戦

9月1日から第30回ツール・ド・北海道

今年で30回目を迎える自転車ロードレース「ツール・ド・北海道2016」（9月1～3日）の実施要項が10日、発表された。節目の今回は全ステージ道央地域で開催。国内外の20チームが、札幌や倶知安など17市町村にまたがる総走行距離511キロを、4ステージに分けて3日間の日程で走り抜ける。

出発式後の第1ステージは、札幌・豊平川河川敷で1キロのタイムトライアルが5年ぶりに復活。午後から第2ステージ111キロのロードレースがスタートし、小樽、赤井川を抜けて倶知安へ。第3ステージは羊蹄山を周り、第4ステージは洞爺湖を通って219キロを走り、札幌・真駒内公園でフィニッシュする。

今回から若手育成のため、道内学生連合の参加が決定。自転車部と同好会がある北大と道科学大の2大学から選抜される。さらに26歳以下の団体総合時間を競う賞の新設も決まった。

同時開催の市民レース3コースで600人を募集する。希望者は5月下旬に掲載されるツール・ド・北海道協会のホームページで申し込む。

5/11　道新スポーツ

特集　2016年（平成28年）8月31日（水曜日）　北海道新聞

ツール・ド・北海道あす開幕

国内最大級のステージ制自転車ロードレース「ツール・ド・北海道2016」は9月1日、札幌市豊平川河川敷の1㌔個人タイムトライアルで幕を開ける。30回の節目を迎える今年は、道央圏の17市町村が舞台。3日間で4ステージに分かれた計511㌔を駆け抜ける。道外の実業団や海外チームのほか、大学、北海道選抜など20チーム100人が繰り広げる熱いレースの見どころを紹介する。（若林彩）

ツール・ド・北海道協会、日本自転車競技連盟主催、北海道新聞社特別協力

レースの魅力　いつ飛び出す？随所で駆け引き

険しい峠やニセコ連峰周辺など変化に富んだ今年のコースは、山道をいかに制するかが大きなポイントになる。上り坂は選手の力量が表れるため、差が開きやすい。時には「クライマー」と呼ばれる上り坂が得意な選手が集団から飛び出し、ペースをかく乱することもある。選手たちの駆け引きに注目だ。

1チームは5人編成。各チームは優勝を狙う「エース」と、エースを支える4人の「アシスト」に役割を分担し、高度な戦略を立てて臨む。

ロードレースは平地でも平均時速が40㌔に達し、強い風圧を受ける。アシストは味方エースの前を走って風よけとなり、エースの体力の消耗を防ぐ。このほか、敵チームの選手を取り囲んでペースダウンさせて逃げ切りを阻止するなど、さまざまな役割をこなす。

レース途中だけでなく、ゴール近くの駆け引きも見どころだ。エースが集団の中で風圧を避けて体力を温存し最後の瞬発力で争うか、1人で風を受けるリスクを負ってでも集団から先行して差をつけるかの選択が重要になる。どのタイミングで勝負に出るのか、チーム間で繰り広げられる心理戦にも目が離せない。

選手　ガルシアら注目■国内勢は五輪組に期待

最高の栄誉とされる個人総合時間賞。5月下旬から6月上旬にかけて行われたツアー・オブ・ジャパンで個人総合2位に入ったマルコス・ガルシア（キナン）、前回のツール・ド・北海道2位のダニエレ・コッリ（イタリア）、同4位のホセ・ビセンテ（マトリックスパワータグ）ら実力者がそろう。

国内勢は、リオデジャネイロ五輪に出場した2人に注目だ。男子個人ロードレースに出た内間康平（ブリヂストンアンカー）は、前回大会の個人総合時間賞で7位に食い込んでいる。五輪の男子オムニアム14位の窪木一茂（イタリア）は、2014年大会で個人総合ポイント賞を獲得した実績がある。

ツール・ド・北海道は、若手選手育成のための世界の国際レースで唯一、大学チームの参加を認めており、5校が出場する。今大会は若手選手を応援しようと、「U26団体総合時間賞」を新設。各チーム25歳以下の上位3人の個人時間合計を競う。日本学生自転車競技連盟のロードランキング（7月31日現在）1位の鹿屋体大や、5年ぶりに出場する北大など、若い選手の熱い走りにも注目だ。

㊧上川管内美瑛町の丘陵地帯を進む選手たち＝2015年9月12日　㊨隊列を組んで士別市内を疾走する選手たち＝同年9月11日

道央511㌔ 風になる

日程とコース

■第1ステージ（1日午前8時30分～10時10分ごろ）

5年ぶりに復活した個人タイムトライアルで開幕。第1回大会でタイムトライアルを開催した記念の場所である豊平川河川敷を会場に、南七条大橋付近から豊平川上流方向へ1㌔のタイムを競う。この成績によって、第2ステージのチームカー序列が決まる。

■第2ステージ（1日午後1時～3時45分ごろ）

札幌市南区のアパホテル&リゾート札幌前から後志管内倶知安町の町公民館手前までの111㌔を競う。レースの見どころは中盤。標高600㍍を超える朝里峠トンネル手前と毛無峠に2度の山岳ポイント（関門）がある。平地で平均40㌔の速度は、下り坂で60㌔近くに達することもある。急勾配の下り坂はスピード感あふれるレースになりそうだ。

■第3ステージ（2日午前9時30分～午後2時5分ごろ）

倶知安町ヒラフスキー場前から後志管内共和町、蘭越町、ニセコ町、京極町、喜茂別町、真狩村を経てスタート地点へ戻る180㌔。序盤には今大会最大の難所、新見峠（山岳ポイントは標高747㍍地点）が立ちはだかる。狭く、曲がりくねった山道をいかに攻略するかがポイントだ。

最終日、大会史上最長の219㌔

■第4ステージ（3日午前9時30分～午後3時5分ごろ）

最終日は大会史上最長となる219㌔のコース。倶知安町ヒラフスキー場前をスタートし、ニセコ町、蘭越町、真狩村、胆振管内洞爺湖町、豊浦町、壮瞥町、伊達市、千歳市、苫小牧市、恵庭市を経て札幌市真駒内公園でゴールする。距離が長く起伏に富んだ道が続くため、スタミナ勝負になりそうだ。

（カッコ内はスタート日時とトップ選手のゴール予想時刻を指す）

出場チーム

■社会人＝9チーム
愛三工業レーシング、ブリヂストンアンカー、群馬グリフィンレーシング、キナン、マトリックスパワータグ、那須ブラーゼン、シマノレーシング、チーム右京、宇都宮ブリッツェン

■海外招待＝5チーム
イタリア、米国、オーストラリア、スイス、アイルランド

■大学＝5チーム
京産大、鹿屋体大、日大、明大、北大

■地域選抜＝1チーム
北海道選抜

個人・団体賞

「U26団体総合時間」新設

個人と団体で五つのタイトルを争う。個人は総合時間、総合ポイント、総合山岳の三つ、団体は総合時間と今大会で新設されたU26総合時間。大会最高の栄誉とされるのは個人総合時間で、優勝者には「北海道カップ」が授与される。各ステージで終了時点の個人部門首位の選手はジャージーの着用が義務づけられている。各部門の詳細は次の通り。

【個人】

◇総合時間賞（リーダージャージー＝緑）
各ステージ完走タイムの合計から、ペナルティーやボーナスを加減した時間を競う。ボーナスは各ステージの途中に設けられた「ホットスポット」と呼ばれる関門の着順上位3人にそれぞれ与えられる。

◇総合ポイント賞（同＝青）
ホットスポットの通過順位による得点と、各ステージのゴール順位による得点の合計点を競う。

◇総合山岳賞（同＝赤）
各ステージの峠や山岳路の頂上付近に設けられた山岳ポイント（関門）の通過順位に応じて与えられる得点の合計を競う。

【団体】

◇総合時間賞
各ステージのチーム上位3人の完走タイムを合計して競う。

◇U26団体総合時間賞
各ステージのチーム内25歳以下の上位3人の完走タイムを合計して競う。

ツール・ド・北海道協会は大会期間中、ホームページで出場チームやコースを紹介しているほか、成績を速報する。アドレスはhttp://www.tour-de-hokkaido.or.jp

8/31　北海道新聞

2016年（平成28年）8月31日（水曜日）　北海道新聞

8/31　北海道新聞

2016年（平成28年）8月31日（水曜日）　読売新聞

8/31　読売新聞

ツール・ド・北海道2016　報道・広報-5

朝日新聞　2016年（平成28年）8月31日　水曜日

TOUR DE HOKKAIDO 2016

9.1THU ▶3SAT

第30回 ツール・ド・北海道 2016

交通規制のお知らせ　交通規制日 9/1(木)・2(金)・3(土)

ステージレース総走行距離…511km

9/1(木)　9/2(金)　9/3(土)

(主催) (公財)ツール・ド・北海道協会　(公財)日本自転車競技連盟　(お問い合わせ) (公財)ツール・ド・北海道協会 TEL(011)222-5922 http://www.tour-de-hokkaido.or.jp

NIPPO　ROYCE'　SUBARU　RINGRINGRING

8/31　朝日新聞

建設行政新聞　2016年（平成28年）8月31日（水曜日）

ツール・ド・北海道2016

秋の後志で熱戦！

═ 9月1日から3日間 ═

◎ツール・ド・北海道 2016 日程

日付	ステージ	スタート	時間	フィニッシュ	予想時間	距離	表彰式
9月1日（木）	出発式	札幌市 豊平川河川敷地特設会場	8:00	−		−	
9月1日（木）	第1ステージ	札幌市 豊平川河川敷地	8:30	札幌市 豊平川河川敷地	10:10〜10:15	1.0km	16:00
9月1日（木）	第2ステージ	札幌市 アパホテル＆リゾート札幌	13:00	倶知安町 公民館手前	15:46〜15:55	111Km	16:15
9月2日（金）	第3ステージ	倶知安町 ヒラフスキー場前	9:30	倶知安町 ヒラフスキー場前	14:05〜14:20	180Km	14:20
9月3日（土）	第4ステージ	倶知安町 ヒラフスキー場前	9:30	札幌市 真駒内公園	15:04〜15:23	219km	18:00
9月3日（土）	最終表彰式	札幌市 アパホテル＆リゾート札幌特設会場		−		−	18:20

◎ツール・ド・北海道 2016 市民レース

日付	ステージ	スタート	フィニッシュ	時間	距離	備考
9月2日（金）	ロードレース	倶知安町ヒラフスキー場前	倶知安町ヒラフスキー場前	8:00	124km	Aコース
		倶知安町ヒラフスキー場前	倶知安町ヒラフスキー場前	8:15	92Km	Bコース
		蘭越町名駒	倶知安町ヒラフスキー場前	8:30	44Km	Cコース

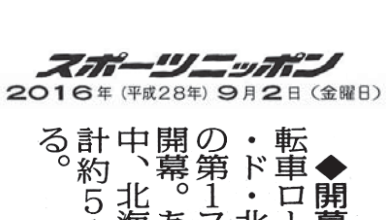
8/31　建設行政新聞

北海道新聞（夕刊）　2016年（平成28年）9月1日（木曜日）

風になる

ツール・ド・北海道開幕

9/1　北海道新聞（夕刊）



スポーツニッポン　2016年（平成28年）9月2日（金曜日）

◆開幕　国内最大級の自転車ロードレース「ツール・ド・北海道」が札幌市での第1ステージを皮切りに開幕。あす3日までの期間中、北海道内の17市町村、計約511キロを走り抜ける。

9/2　スポーツニッポン

2016年（平成28年）9月2日　金曜日　朝日新聞

いざ 511キロ駆け抜けろ

ツール・ド・北海道 開幕

9/2　朝日新聞

2016年（平成28年）9月2日（金曜日）　北海道新聞

増田、個人総合首位

第1日

自転車

■ツール・ド・北海道2016（1日・札幌市―後志管内倶知安町）　国内最大級の自転車ロードレースの第1日は、札幌市内で1キロ個人タイムトライアルの第1ステージと、札幌市と後志管内倶知安町を結ぶ108・1キロの第2ステージを行った。

第1ステージは、ジョン・アベラストゥリ（スペイン、チーム右京）が優勝。第2ステージは増田成幸（宇都宮ブリッツェン）が制し、個人総合時間でも首位に立った。団体総合は宇都宮ブリッツェンが首位に立った。

第2ステージは朝里峠（道道小樽定山渓線）を越えた残り57キロの地点で増田を含めた4選手が集団から抜け出し、毛無峠（国道393号）を1位通過した増田が残り約50キロを逃げ切った。

2日は倶知安町ヒラフスキー場前発着で、今大会最大の難所、新見峠（道道岩内蘭越線）がそびえる第3ステージを走行する。

●動画はどうしん電子版で

▽第1ステージ（個人タイムライアル1キロ）①ジョン・アベラストゥリ（スペイン、チーム右京）1分14秒16②ティエリー（スイス、ヴェロクラブメンドリシオ）1分15秒03③スタキオティ（イタリア、NIPPOヴィーニファンティーニ）1分15秒08

▽第2ステージ（108・1キロ）①増田成幸（宇都宮ブリッツェン）2時間39分56秒②モニエ（フランス、ブリヂストンアンカー）2時間40分38秒③鈴木（宇都宮ブリッツェン）2時間40分38秒＝2、3位は着差あり

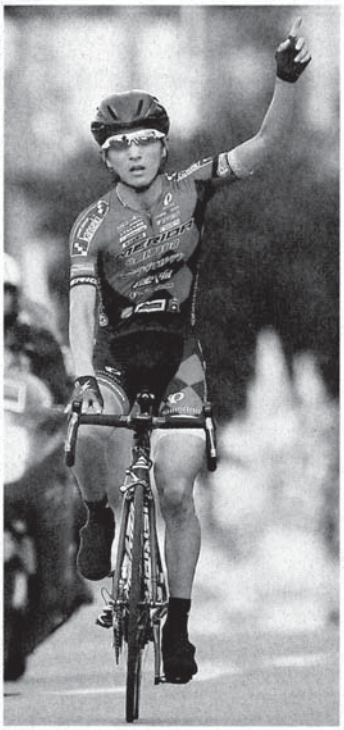
▽第1日の個人総合　①増田成幸（宇都宮ブリッツェン）2時間41分9秒②ティエリー（スイス、ヴェロクラブメンドリシオ）2時間41分53秒③プラデス（スペイン、チーム右京）2時間41分53秒＝2、3位は第1ステージの成績による

▽同団体総合　①宇都宮ブリッツェン8時間11分47秒③ヴェロクラブメンドリシオ（スイス）8時間11分49秒⑯北海道地域選抜8時間24分8秒⑲北大8時間58分57秒

▽同個人総合ポイント　①シリル・ティエリー（スイス、ヴェロクラブメンドリシオ）12②鈴木（宇都宮ブリッツェン）11③増田（宇都宮ブリッツェン）10

▽同個人総合山岳　①増田成幸（宇都宮ブリッツェン）14②ルバ（フランス、ブリヂストンアンカー）10③ボネロ（オーストラリア、セントジョージメリダ）6

監督のゲキ　勇気百倍



得意の山登りで第2ステージを制し、個人総合でも首位に立った増田（中本翔撮影）

得意の山登りで力を見せつけた。標高600メートルを越える朝里峠と毛無峠の二つの山岳ポイントを制した増田が2位に42秒差をつける圧巻のレースで第2ステージを制覇した。

朝里峠を1位通過して、残り57キロ。集団から抜け出した4人によるトップ争いの中、増田は飛び出す機会を狙っていた。「他の3選手が争っている。その隙をつく」。毛無峠の上り坂をトップスピードで駆け上がると、後続に2分30秒以上の大差をつけて2度目の山岳ポイントを通過した。

だが、108・1キロのレースは長丁場。峠を下り、残り40キロの地点で両脚をつり、「後続集団に戻ろうか」と弱気になった。支えたのはチームカーから声を掛け続けた清水監督。「イチかバチかで行け」という指示に、増田は再びペダルを力強く踏みしめた。残り2キロの地点では後続集団に40秒差にまで詰め寄られたが、チームメートの鈴木が集団を抑え、増田のトップを守り抜いた。

個人総合山岳賞では2011年に2位、昨年は4位と実績はあるが、ステージを制したのは初めて。「勝てたのは信頼する仲間たちのおかげ」。チームきってのクライマーが緑色のリーダージャージーに誇らしげに袖を通した。（若林彩）

9/2　北海道新聞

2016年（平成28年）9月2日（金）　毎日新聞

ツール・ド・北海道開幕

17市町村、511キロ走る

国内最大級の自転車ロードレース「ツール・ド・北海道」が1日、札幌市での第1ステージを皮切りに開幕した。3日までの期間中、道内17市町村、計約511キロを走り抜ける。30回目を迎えた今年の第1ステージは1987年の第1回大会と同様、札幌市豊平区の豊平川河川敷で1キロの個人タイムトライアルを実施した。

大会にはイタリアやスイスなど海外勢5チーム、京都産業大や鹿屋体育大など5大学を含む国内15チームの約100人が参加。レースは4ステージで、羊蹄山のふもとや洞爺湖畔を疾走、ゴールの札幌市南区の真駒内公園を目指す。3日の第4ステージは大会史上最長の219キロで、過酷なレースが予想される。

9/2　毎日新聞

日刊スポーツ　2016年（平成28年）9月2日　金曜日

ツール北海道 30回目の開幕

国内最大級の自転車ロードレース「ツール・ド・北海道」が1日、札幌市での第1ステージを皮切りに開幕した。3日までの期間中、道内の17市町村、計約511キロを走り抜ける。

「ツール・ド・北海道」の第2ステージで走行する選手たち

30回目を迎えた今年の第1ステージは、1987年（昭62）の第1回大会と同様、豊平区の豊平川河川敷で1キロの個人タイムトライアルを実施。家族4人で応援に来た旭川市の小学6年菅原嶺水君（11）は「みんな速すぎて次元が違う。大きくなったら出てみたい」と憧れの目を向けた。

大会にはイタリアやスイスなど海外勢5チーム、京産大や鹿屋体大など5大学を含む国内15チームの約100人が参加。レースは4ステージで、羊蹄山の麓や洞爺湖畔を疾走、ゴールの札幌市南区の真駒内公園を目指す。3日の第4ステージは大会史上最長の219キロで、過酷なレースが予想される。

9/2　日刊スポーツ

北海道新聞　2016年（平成28年）9月3日（土曜日）

自転車

中根、僅差で3位

ツール・ド・北海道2016（2日・後志管内倶知安町ヒラフスキー場前発着）第2日は、177・2キロの第3ステージを行い、ピエールパオロ・デネグリ（イタリア、NIPPOヴィーニファンティーニ）が4時間34分42秒で区間優勝した。中根英登（愛三工業）が僅差の3位。個人総合は、前日の第2ステージを制した増田成幸（宇都宮ブリッツェン）が7時間16分5秒で1位。団体総合も前日に引き続き、宇都宮ブリッツェンが首位を守った。

レースは、新見峠（道道岩内蘭越線）をトップで越えた67キロ地点で、チームメートの早川ら4人が集団から飛び出す。各チームの駆け引きの中、中根は集団で勝負の時を待った。

最後のスプリント。ゴール直前の600メートルの上り坂で「仕掛けるのは今しかない」。集団から飛び出した中根は、一気にトップに躍り出た。得意の上り坂をぐんぐん上る。だが、ゴール直前で力尽きた。「悔しい。あと10メートルだった」

それでも「最後で一発力を出してくれた」と西谷監督。自分も選手として2006年に個人総合で優勝を果たし、勝負の厳しさを分かっているだけに、その果敢な走りをたたえた。

「チャンスがあれば、積極的に仕掛けていきたい」と中根。最終ステージへ力を込めた。（若林彩）

ゴール直前の上り坂で3位に食い込んだ中根英登（中央）＝中本翔撮影

最後の粘り見せた　中根

エースの粘りがチームに光をもたらした。最後まで集団が崩れない混戦状況で、愛三工業の中根が日本勢最高の3位。チームの団体総合順位を前日の8位から6位に押し上げた。

「序盤から急勾配が続く。勝負は後半」と西谷監督の予想通りにレースは展開。最大の難関である新見峠を地点から、4選手が抜け出し、それを集団が追う形で展開された。残り1キロで集団は一つになり、最後の上り坂でトップに出たデネグリが混戦を制した。

3日の最終ステージは、大会史上最長となる216・2キロのコース。倶知安町ヒラフスキー場前を出発、札幌市真駒内公園を目指す。

▽第3ステージ（177・2キロ）①ピエールパオロ・デネグリ（イタリア、NIPPOヴィーニファンティーニ）4時間34分42秒②ガルシア（スペイン、キナン）4時間34分42秒③中根（愛三工業）4時間34分42秒（1～3位は着差なし）

▽第2日までの個人総合①増田成幸（宇都宮ブリッツェン）7時間16分5秒②デネグリ（イタリア、NIPPOヴィーニファンティーニ）7時間16分32秒③ガルシア（スペイン、キナン）7時間16分32秒（2、3位はステージ成績による）

▽同団体総合①宇都宮ブリッツェン21時間55分55秒②キナン21時間56分24秒③ヴェロクラブメンドリシオ（スイス）21時間56分49秒⑩北海道地域選抜22時間10分19秒

▽同個人総合ポイント①ピエールパオロ・デネグリ（イタリア、NIPPOヴィーニファンティーニ）32②ティエリー（スイス、ヴェロクラブメンドリシオ）24③スタキオティ（イタリア、NIPPOヴィーニファンティーニ）22

▽同個人総合山岳①増田成幸（宇都宮ブリッツェン）16②ルバ（フランス、アリアストンアンカー）11③ブライコ（アメリカ、ジェリーベリー）10

▼仲間に守られ体力温存

個人総合で首位を守った増田は「仲間のおかげ」と感謝を口にした。

序盤から他チームが積極的に逃げ切りを図ろうとしたが、チームメートの大久保と阿部（檜工高出）がトップに食らいついて流れを阻止。増田は仲間に守られながら集団の中で体力を温存し、最後の上り坂で追い上げをかけた。「脚の疲れが限界にきていた」と14位にとどまったが、個人総合は2位に27秒差をつけた。

最終ステージは大会史上最長の216・2キロ。厳しいレースが予想されるが、「ジャージーを守ってみせる」と総合優勝を誓った。

9/3　北海道新聞

2016年（平成28年）9月4日（日曜日）　北海道新聞

増田 個人総合V 日本人6年ぶり

自転車 ツール・ド・北海道2016（3日・後志管内倶知安町ヒラフスキー場前―札幌市真駒内公園）最終日は、大会史上最長の213・2㌔の第4ステージを行った。総合首位で最終日を迎えた増田成幸（宇都宮ブリッツェン）は同ステージ19位ながら、12時間50分23秒で日本人としては6年ぶりの個人総合優勝を飾った。増田は個人総合山岳賞高の3位に入った。レースとの2冠を達成した。団体総合は最初の山岳ポイントを越えた20㌔地点から、先行する5選手とそれを追うメイン集団で展開された。先頭と集団の差は最大11分以上開いたが、99・7㌔地点からの上り坂で徐々に縮まった。最後は、増田を含めたメイン集団が先頭に34秒差にまで迫ったが、逃げ切った5人がそのままゴールし

個人総合で初優勝した増田（中本翔撮影）

攻め果敢 山岳も制す

濃霧の峠、雨の山道を越え、青空の下でゴールした。宇都宮ブリッツェンきってのレーサーが初日に勝ち取ったリーダージャージーをたった。

▽第4ステージ（213・2㌔）①デービッド・モートン（オーストラリア、ジェリーベリー）5時間33分44秒②トリビオ（スペイン、マトリックスパワータグ）5時間33分44秒③西薗（ブリヂストンアンカー）5時間33分44秒

▽個人総合最終成績（1～3位は着差あり）①増田成幸（宇都宮ブリッツェン）12時間50分23秒②デネグリ（イタリア、NIPPOヴィーニファンティー）12時間50分50秒③ガルシア（スペイン、キナン）12時間50分50秒

▽団体総合最終成績①ブリヂストンアンカー38時間39分38秒②ヴェロクラブメンドリシオ（スイス）38時間39分43秒③キナン38時間42分17秒

最終ステージは、序盤から増田がマークされる気の抜けない展開だった。それでも、「山道を制するのは自分」。他チームがアタックを仕掛ける中、最初の山岳ポイントを2位で通過するなど、果敢に攻めた。

踏ん張ったのはアシスト陣。サポートに専念して前日にリタイアした岡部（樽工高出）を欠きながら3人でエースを守った。上位選手の逃げを防ぎながら100㌔以上集団を引っ張ったのは大久保。最後は先行していた鈴木譲が11分以上開いていた差を34秒にまで縮め、集団の中で待ち構えた増田がゴールへ飛び込んだ。結果は19位ながらも、総合時間で2位に37秒差。総力戦で勝ち取った圧巻のレースだった。

増田にとって、ツール・ド・北海道は、10年前にプロデビューした初の国際大会。「足かけ10年、何としても欲しい一勝だった」。念願の栄冠をつかんだエースは、レース後、最後まで自身を支えてくれた仲間を抱きしめ、たたえた。

「翼が生えたレーサー」と呼ばれる増田。由来は大学4年時に出た鳥人間コンテストだ。ペダルをこいでプロペラを回す人力飛行機でマークした49・172㌔は今でも日本記録。その「翼」で総走行距離511㌔を駆け抜け、自身初の総合優勝へと羽ばたいた。（若林彩）

9/4　北海道新聞

日刊スポーツ
2016年（平成28年）9月4日　日曜日

◇自転車　ツール・ド・北海道最終日（3日、倶知安・ヒラフスキー場前―札幌・真駒内公園）

▽第4ステージ（213・2㌔）❶デービッド・モートン（豪州、ジェリーベリー）5時間33分44秒❷トリビオ（スペイン、マトリックスパワータグ）5時間33分44秒❸西薗（ブリヂストンアンカー）5時間33分44秒

☆1～3位は着差あり

▽個人総合最終成績❶増田成幸（宇都宮ブリッツェン）12時間50分23秒❷デネグリ（イタリア、NIPPOヴィーニファンティー）12時間50分50秒❸ガルシア（スペイン、キナン）12時間50分50秒

☆2、3位は第1ステージの成績による

▽団体総合最終成績❶ブリヂストンアンカー38時間39分38秒❷ヴェロクラブメンドリシオ（スイス）38時間39分43秒❸キナン38時間42分17秒

9/4　日刊スポーツ

道新スポーツ
2016年（平成28年）9月4日（日曜日）

◇自転車　ツール・ド・北海道最終日（3日、倶知安町ヒラフスキー場前―札幌市真駒内公園）

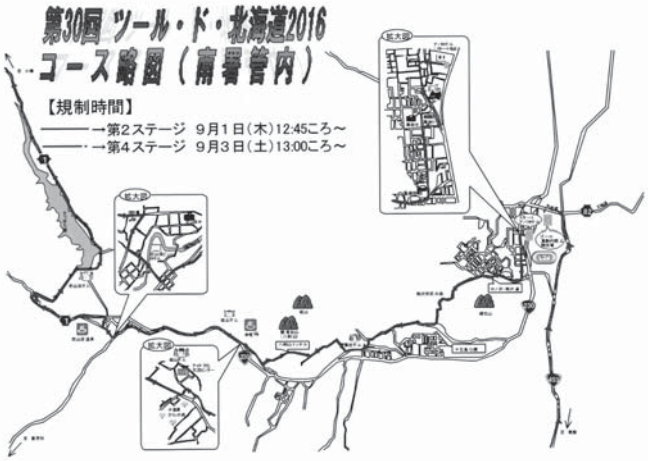
▽第4ステージ（213・2㌔）①デービッド・モートン（豪州、ジェリーベリー）5時間33分44秒②トリビオ（スペイン、マトリックスパワータグ）5時間33分44秒③西薗（ブリヂストンアンカー）5時間33分44秒

▽個人総合最終成績（1～3位は着差あり）①増田成幸（宇都宮ブリッツェン）12時間50分23秒②デネグリ（イタリア、NIPPOヴィーニファンティー）12時間50分50秒③ガルシア（スペイン、キナン）12時間50分50秒

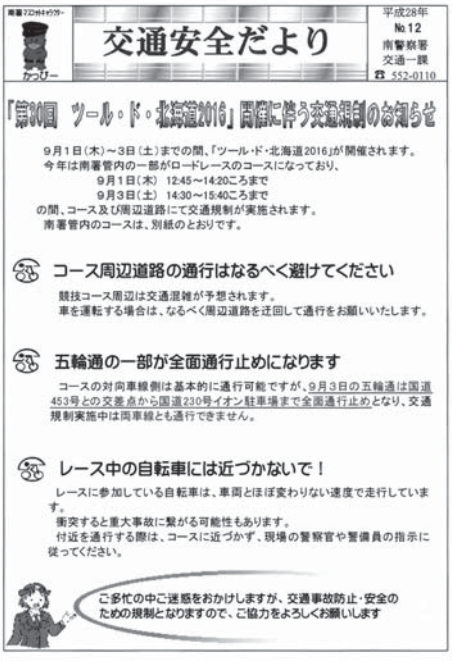
▽団体総合最終成績①ブリヂストンアンカー38時間39分38秒②ヴェロクラブメンドリシオ（スイス）38時間39分43秒③キナン38時間42分17秒

（2、3位は第1ステージの成績による）

9/4　道新スポーツ



●札幌南警察署 HP掲載



●札幌南警察署 HP掲載

ツール・ド・北海道2016　報道・広報-9

～市町村広報誌等の広報-①～

ツール・ド・北海道に伴う交通規制

日①9月1日㈭12時45分～13時45分、②3日㈯14時40分～15時30分。

経路①はアパホテル&リゾート～藻岩小学校前～藻南自動車学校前～白川～新御料橋～八剣山トンネル～小金湯温泉・国道230号交差点～道道1号線、②は国道453号（支笏湖から）～石山陸橋～エドウィン・ダン記念公園前交差点～国道453号・五輪通交差点～道道82号～真駒内公園。

問ツール・ド・北海道協会☎(222)5922

●札幌市　広報さっぽろ８月号掲載

ツール・ド・北海道2016

９月１日㈭～３日㈯にツール・ド・北海道2016が開催されます。９月１日㈭の第２ステージでは小樽市域も一部コースとなっており、交通規制が行われますので、ご注意ください。

一流選手の迫力あるレースを間近で観戦することができます。沿道からの応援をお待ちしています。

◎詳細　生涯スポーツ課☎内線318、FAX33-6608

通過時間	ところ
午後２時２分ころ	道道１号（札幌・小樽境界）
午後２時18分ころ	道道１号（朝里クラッセホテル前）
午後２時25分ころ	望洋台中学校前

●小樽市　広報おたる８月号掲載

小樽市 :ツール・ド・北海道2016　1/2 ページ

小樽市へようこそ
Welcome to Otaru City.

よみあげ　ふりがな　もじを大きく　いろ　English　中文　한국어
組織案内　施設案内　検索

ホーム　市民の皆さんへ　事業者の皆さんへ　観光客の皆さんへ　市政情報・統計・計画　アクセス　お問い合わせ

トップ / 市民の皆さんへ / 生涯学習・スポーツ・文化 / スポーツ / スポーツイベント / ツール・ド・北海道2016

ツール・ド・北海道2016開催のお知らせ

国際自転車競技連合(UCI)公認の自転車ロードレース「ツール・ド・北海道」が9月1日札幌市で開幕し、3日間で道央17市町村511kmを走破します。本大会は30回目の節目を迎え、海外及び国内から合計20チーム100名が出場予定です。一流選手の迫力あるレースを間近で観戦できる折角の機会ですので、是非沿道から応援してください。

【第1ステージ】
9月1日(木)《個人タイムトライアル・1km》
8:30～10:15ころ札幌市豊平区豊平川河川敷地（南七条大橋付近）

【第2ステージ】
9月1日(木)《ロードレース・111km》
13:00スタート札幌市南区（アパホテル前）～小樽市など～倶知安町（公民館手前）15:46ころフィニッシュ

【第3ステージ】
9月2日(金)《ロードレース・180km》
9:30スタート倶知安町（ヒラフスキー場前）～蘭越町など～倶知安町（ヒラフスキー場前）14:05ころフィニッシュ

【第4ステージ】
9月3日(土)《ロードレース・219km》
9:30スタート倶知安町（ヒラフスキー場前）～洞爺湖町など～札幌市（真駒内公園）15:04ころフィニッシュ

ツール・ド・北海道2016開催のお知らせ(PDF312KB)

小樽市通過予定時刻

第2ステージ9月1日(木)
14:02ころ　道道1号札幌・小樽境界
14:18ころ　道道1号朝里クラッセホテル前
14:24ころ　望洋台大橋先（ホットスポット）
14:25ころ　望洋台中学校前

参考リンク

ツール北海道TOURDEHOKKAIDO2016外部サイト

生涯スポーツ課

教育委員会教育部生涯スポーツ課
〒047-0024
小樽市花園○丁目○番○号
電話0134-32-4111　内線318,415
ファクス0134-33-6608
syogai-sports@city.otaru.lg.jp

・個人情報の取り扱いについて
・著作権・リンク等
・小樽市ホームページの利用方法
・ご意見・お問合せをお寄せください

このサイトは島根県CMSで構築されています。
Copyright © 2009 Otaru City.

●小樽市　ＨＰ掲載

ツール・ド・北海道2016　報道・広報-10

～市町村広報誌等の広報-②～

ツール・ド・北海道２０１６開催のお知らせ

国際自転車競技連合(UCI)公認の自転車ロードレース「ツール・ド・北海道」が9月1日札幌市で開幕し、3日間で道央17市町村511kmを走破します。本大会は30回目の節目を迎え、海外及び国内から合計20チーム100名が出場予定です。一流選手の迫力あるレースを間近で観戦できる折角の機会ですので、是非沿道から応援してください！

【第1ステージ】9月1日(木)(個人タイムトライアル・1km)8:30～10:15ごろ 札幌市豊平区 豊平川河川敷地(美七条大橋付近)
【第2ステージ】9月1日(木)(ロードレース・111km)13:00スタート 札幌市南区(アパホテル前)～小樽市など～倶知安町(公民館手前)15:46ごろ フィニッシュ
【第3ステージ】9月2日(金)(ロードレース・180km) 9:30スタート 倶知安町(ヒラフスキー場前)～蘭越町など～倶知安町(ヒラフスキー場前)14:05ごろ フィニッシュ
【第4ステージ】9月3日(土)(ロードレース・219km) 9:30スタート 倶知安町(ヒラフスキー場前)～洞爺湖町など～札幌市(真駒内公園)15:04ごろ フィニッシュ

小樽市通過予定時刻 第2ステージ 9月1日(木) 14:02ごろ道道1号 札幌・小樽境界～14:18ごろ道道1号 朝里川温泉～14:24ごろ望洋台大橋先(ホットスポット)

交通規制にご協力ください

上記のほか大会期間中、競技車列通過時刻の約3分前から車列が通過するまでの間(最大で20分程度)、車両・歩行者の通行制限等交通規制が行われます。ご理解のうえ、現場の警察官の指示に従ってください。また、渋滞が予想されますので、規制時間帯を避けるか迂回されるなど、交通の混雑緩和にご協力をお願いします。

★規制の方法

競技車列は、先頭に規制予告パトカー、最後尾には規制解除のパトカーが来ます。原則として競技車列に順行する車両は車列に入らない限り後方を追従して走行できますが、車列の追い越しや割り込みはできません。競技車列に対向する車両は規制された区域以外は徐行して通行できますが、車列と交差する車両及び交差点では、車列が通過するまでの間交通が規制されます。

問い合わせ　小樽市教育委員会 生涯スポーツ課 ☎ 0134-32-4111
ツール・ド・北海道2016実行委員会 ☎ 011-222-5922

●小樽市　ＨＰ掲載

1987年10月に始まったツール・ド・北海道が今年で30回目を迎えます。

今年は、9月1日(木)から3日(土)までの期間で、4ステージが開催されます。

1日目は、札幌市をスタートし、定山渓、赤井川村を抜けて倶知安町に入り、蘭越町は、2日目の第3ステージと3日目の第4ステージに選手が通過いたします。

また、同時に市民ロードレースを開催するため、交通規制が予定されておりますので、地域の皆様にはご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。

2日目の第3ステージと市民ロードレース（A/B/Cの3コース）が同時に開催されるため、広い範囲で交通規制が予定されております（緑色の道路がコースとなります）。

●蘭越町　広報らんこし７月号掲載

◆ツール・ド・北海道２０１６

ツール・ド・北海道は、道央地域において9月1日（木）から3日（土）までの3日間で全4ステージを開催します。1日（木）に豊平川河川敷地特設会場（札幌市）で出発式を行った後、午後からの第2ステージは札幌市をスタートし、町公民館前でフィニッシュする111㌔のコースです。翌2日（金）の第3ステージはニセコ・グランヒラフスキー場がスタート地点とフィニッシュ地点となっている180㌔のコースです。最終日3日（土）は、ニセコ・グランヒラフスキー場前をスタートし、札幌市でフィニッシュする219㌔のコースです。当日は町内の一部で交通規制が予定されています。

※交通規制の詳細は、今月号広報折込チラシをご覧ください

●倶知安町　広報くっちゃん８月号掲載

ツール・ド・北海道開催

毎年、道内各地で開催される自転車の国際レース「ツール・ド・北海道国際大会」が、今年はニセコ町内にもコースが設定されました。

なお、競技中はコースとなる国道や道道、町道に交通規制が行われますので、ご協力をお願いします。

■開催日時／9月2日(金)、3日(土)

■問合せ／㈶ツール・ド・北海道協会
☎011・222・5922

●ニセコ町　広報ニセコ８月号掲載

ツール･ド･北海道2016　報道･広報-11

～市町村広報誌等の広報-③～

まっかりを駆け抜けました

●真狩村　まっかりの風のたより８月号掲載

ツール･ド･北海道のお知らせ

国際自転車競技連合（UCI）公認の自転車ロードレース「ツール・ド・北海道2016」が９月１日札幌市で開幕し、３日間で道央17市町村511kmを走破します。

本大会は30回目の節目を迎え、海外および国内から合計20チーム100名が出場予定です。一流選手の迫力あるレースを間近で観戦できる折角の機会ですので、ぜひ沿道から応援をお願いいたします。

※競技車列通過時刻の約３分前から車列が通過するまでの間、交通規制が行われますので、現場の警察官の指示に従ってください。

【第４ステージ】
９月３日（土）《ロードレース・219km》
午前９時30分スタート→倶知安町（ヒラフスキー場前）～洞爺湖町など～札幌市（真駒内公園）午後３時４分頃フィニッシュ

■豊浦町の通過ルート
留寿都方面→豊浦町大和→桜→洞爺湖町花和
【旧大和小学校付近】
・午前11時20分頃から
11時50分頃通過予定
【桜公民館付近】
・午前11時30分頃から
午後０時５分頃通過予定

問　水産商工振興課 商工観光係　☎83-1408

●豊浦町　広報とようら８月号掲載

ツール･ド･北海道2016(第30回大会)開催のお知らせ

国際自転車競技連合(UCI)公認の自転車ロードレース「ツール・ド・北海道2016」が９月１日札幌市で開幕し、３日間で道央17市町村511kmを走破します。

本大会は30回目の節目を迎え、海外及び国内から合計20チーム100名が出場予定です。一流選手の迫力あるレースを間近で観戦できる折角の機会ですので、是非沿道から応援してください！

【第１ステージ】９月１日㈭《個人タイムトライアル・1km》8:30～10:15ころ
札幌市豊平区豊平川河川敷地（南七条大橋付近）
【第２ステージ】９月１日㈭《ロードレース・111km》13:00スタート
札幌市南区（アパホテル前）～小樽市など～倶知安町（公民館手前）15:46ころフィニッシュ
【第３ステージ】９月２日㈮《ロードレース・180km》9:30スタート
倶知安町（ヒラフスキー場前）～蘭越町など～倶知安町（ヒラフスキー場前）14:05ころフィニッシュ
【第４ステージ】９月３日㈯《ロードレース・219km》9:30スタート
倶知安町（ヒラフスキー場前）～洞爺湖町など～札幌市（真駒内公園）15:04ころフィニッシュ

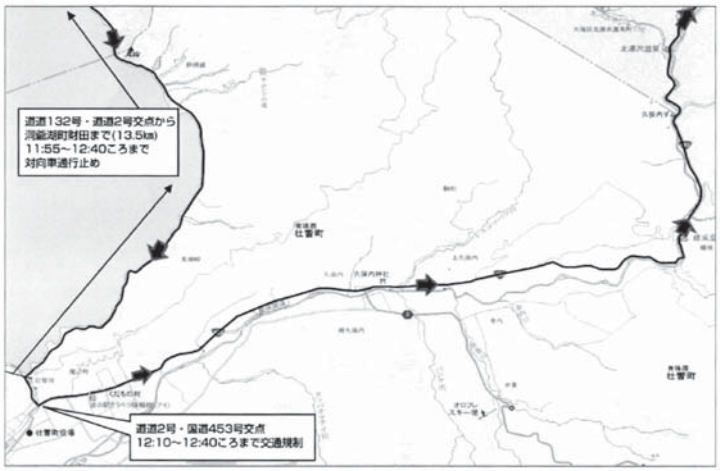
壮瞥町の自転車通過予定時刻　第４ステージ 9月3日㈯12:10ころ
洞爺湖町との境界通過→壮瞥町→12:44ころ伊達市との境界通過予定

－２－

●壮瞥町　広報そうべつ８月号掲載

ツール･ド･北海道2016　報道･広報-12

～市町村広報誌等の広報-④～



交通規制にご協力ください

上記のほか大会期間中、競技車列通過時刻の約３分前から車列が通過するまでの間（最大で20分程度）、車両・歩行者の通行制限等交通規制が行われます。ご理解のうえ、現場の警察官の指示に従ってください。また、渋滞が予想されますので、規制時間帯を避けるか迂回されるなど、交通の混雑緩和にご協力をお願いします。

★規制の方法

競技車列は、先頭に規制予告パトカー、最後尾には規制解除のパトカーが来ます。原則として競技車列に順行する車両は、車列に入らない限り後方を追従して走行できますが、車列の追い越しや割り込みはできません。競技車列に対向する車両は、規制された区域以外は徐行して通行できますが、車列と交差する車両及び交差点では、車列が通過するまでの間交通が規制されます。

【お問い合わせ先】壮瞥町商工観光課（☎66-4200）
ツール・ド・北海道2016実行委員会（☎011-222-5922）

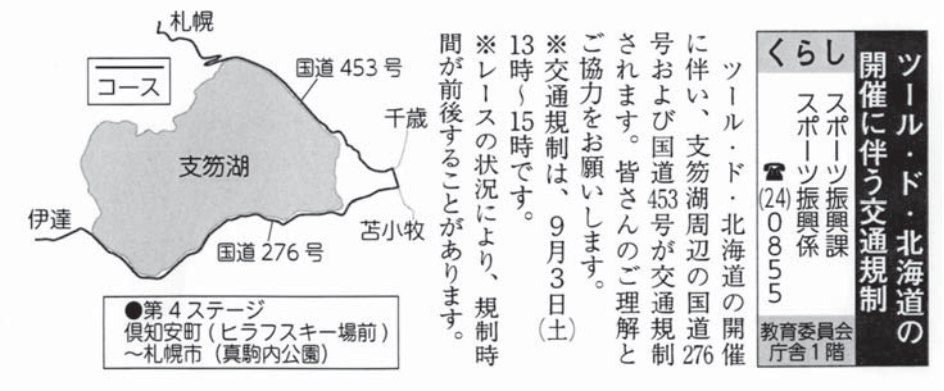
－3－

●壮瞥町　広報そうべつ８月号掲載

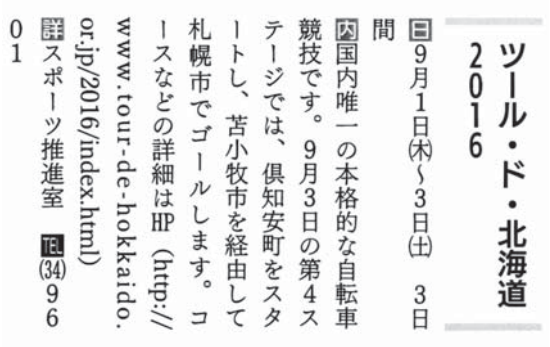
●洞爺湖町　広報とうや湖８月号掲載

●伊達市　広報だて８月号掲載

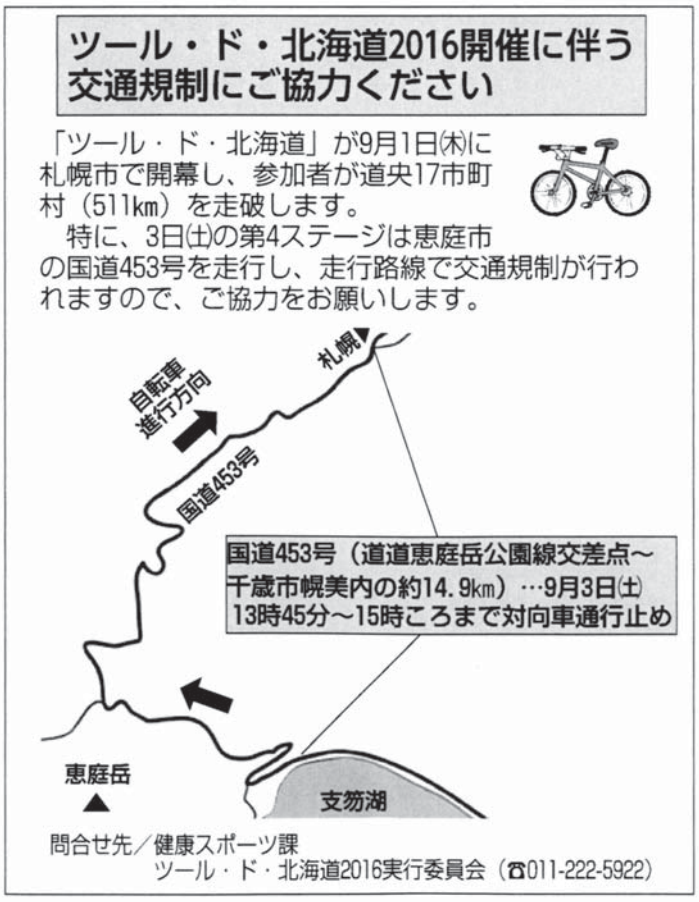
ツール・ド・北海道2016　報道・広報-13
～市町村広報誌等の広報-⑤～



●千歳市　広報ちとせ８月号掲載



●苫小牧市　広報とまこまい７月号掲載



●恵庭市　広報えにわ８月号掲載

その他の広報活動

■イベント情報掲載

○「じゃらんnet」北海道のイベント　(協同組合インフォメーションテクノロジー関西)
○「Yahoo!ロコ」北海道のイベント　(協同組合インフォメーションテクノロジー関西)
○「webサイトぐうたび北海道」イベント情報　(北海道バリュースコープ)
○「サイクルスポーツ」イベント情報８～９月号　(八重洲出版)

■テレビ放送

ＨＴＢ（道内）	9 月 3 日(土)	23 時 10 分～23 時 11 分
ＨＴＢ（道内）	10 月 6 日(木)	9 時 55 分～10 時 50 分
ＨＴＢ（再放送）	10 月 8 日(土)	24 時 45 分～25 時 45 分

ツール・ド・北海道2016 主催・後援・協力・協賛一覧

●主催

公益財団法人ツール・ド・北海道協会

公益財団法人日本自転車競技連盟

●後援

国土交通省

スポーツ庁

経済産業省

北海道

北海道市長会

北海道町村会

公益財団法人JKA

公益財団法人日本体育協会

公益財団法人日本オリンピック委員会

一般財団法人日本自転車普及協会

一般社団法人自転車協会

NHK札幌放送局

北海道テレビ放送株式会社

北海道経済連合会

一般社団法人北海道商工会議所連合会

公益社団法人北海道観光振興機構

一般社団法人北海道建設業協会

一般社団法人北海道舗装事業協会

一般社団法人日本道路建設業協会北海道支部

北海道アスファルト合材協会

一般社団法人北海道バス協会

公益社団法人北海道トラック協会

●特別協力

北海道新聞社

●協力

北海道開発局

北海道経済産業局

札幌市、小樽市、赤井川村、倶知安町、共和町、蘭越町

ニセコ町、京極町、喜茂別町、真狩村、洞爺湖町、豊浦町

壮瞥町、伊達市、千歳市、苫小牧市、恵庭市

公益財団法人北海道体育協会

一般財団法人北海道交通安全協会

北海道自転車競技連盟

北海道自転車軽自動車商業協同組合

北海道自転車協会

北海道サイクリング協会

特定非営利活動法人北海道歩くスキー協会

●特別協賛

株式会社ＮＩＰＰＯ

株式会社ロイズコンフェクト

富士重工業株式会社

●協賛各社

株式会社阿部商会

アメアスポーツジャパン株式会社

井上ゴム工業株式会社

ウェッジ株式会社

ＨＴＭ株式会社

京極製氷株式会社

サッポロビール株式会社

株式会社JTB北海道

株式会社シマノ・シマノセールス株式会社

株式会社写真工芸社

損害保険ジャパン日本興亜株式会社

株式会社日直商会

パナソニックサイクルテック株式会社

株式会社パールイズミ

ブリヂストンサイクル株式会社

株式会社マトリックス

マルスイ冷蔵株式会社

株式会社丸ヨ池内

岩田地崎建設株式会社

株式会社大林組

株式会社開発工営社

こぶし建設株式会社

大成建設株式会社

株式会社ドボク管理

日吉建設株式会社

北土建設株式会社

丸彦渡辺建設株式会社

ツール・ド・北海道2016　大会役員名簿

● 総　裁	綿貫民輔	公益財団法人ツール・ド・北海道協会会長
● 副総裁	高橋はるみ	北海道知事［協会顧問］
	秋元克広	札幌市長［協会顧問］
	西原　巧	公益財団法人ツール・ド・北海道協会顧問
	眞田　眞	公益財団法人ツール・ド・北海道協会顧問
	河本英典	綾羽株式会社取締役社長［協会顧問］
● 大会長	山本隆幸	公益財団法人ツール・ド・北海道協会理事長
● 副大会長	橋本聖子	公益財団法人日本自転車競技連盟会長
	吉田和憲	公益財団法人JKA会長
● 大会顧問	今　日出人	国土交通省北海道開発局長
	児嶋秀平	経済産業省北海道経済産業局長

● 大会参与（五十音順）

赤松　宏	赤井川村長
池田明聰	池田明聰公認会計士事務所公認会計士
石川栄男	株式会社NIPPO北海道支店執行役員支店長
岩倉博文	苫小牧市長
大島研一	公益財団法人日本自転車競技連盟副会長
小川　魁	北海道サイクリング協会会長代行
小川敏雄	社会福祉法人扶桑苑理事長
片山健也	ニセコ町長
菊谷秀吉	北海道市長会会長（伊達市長）
倉内公嘉	国土交通省北海道開発局小樽開発建設部長
小磯修二	北海道大学公共政策大学院特任教授
斉藤智徳	株式会社北英建設顧問
坂　敏弘	一般社団法人北海道建設業協会副会長
佐々木和見	真狩村長
笹部俊雄	公益財団法人JKA専務理事
佐藤秀敏	壮瞥町長
渋谷良二	一般財団法人日本自転車普及協会常務理事
菅原章嗣	喜茂別町長
住吉徳文	サッポロビール株式会社北海道本社副代表
高松　泰	北海道大学公共政策大学院特任教授
棚野孝夫	北海道町村会会長（白糠町長）
辻　信三	医療法人社団東桑会札幌北クリニック情報管理顧問
恒松　浩	日本学生自転車競技連盟評議員
難波江完三	国土交通省北海道開発局札幌開発建設部長
西江栄二	倶知安町長
原田　裕	恵庭市長
日浅尚子	株式会社道新文化センター代表取締役社長
福島　厚	公益財団法人JKA執行理事
真屋敏春	洞爺湖町長
宮内谷留雄	蘭越町長
宮島滋近	国土交通省北海道開発局室蘭開発建設部長
村井洋一	豊浦町長
森井秀明	小樽市長
森野和泰	公益財団法人北海道体育協会副会長
安江　哲	株式会社北未来技研代表取締役社長
山口幸太郎	千歳市長
山崎一雄	京極町長
山本栄二	共和町長
山本邦彦	北海道空港株式会社取締役副会長
渡辺一郎	一般社団法人北海道舗装事業協会会長

ツール・ド・北海道2016 実行委員会名簿

委員長　勇崎恒也　公益財団法人北海道体育協会顧問
副委員長　穴田勝彦　公益財団法人日本自転車競技連盟参与
副委員長　小野盛秀　北海道自転車競技連盟会長

所属	委員		幹事	
■各団体				
北海道自転車軽自動車商業協同組合	理事長	小野盛秀	副理事長	高橋嘉弘
			副理事長	服部好泰
北海道自転車協会	会長	村山文彦		
北海道サイクリング協会	会長代行	小川魁	理事長	村上昌美
特定非営利活動法人北海道歩くスキー協会	代表理事	浜島泉	理事	池内勝治
一般財団法人北海道交通安全協会	専務理事	北森繁	常務理事	新谷恵司
公益財団法人北海道体育協会	専務理事	坂本和彦		
公益社団法人北海道観光振興機構	専務理事	竹谷英一		
■国土交通省　北海道開発局				
国土交通省　北海道開発局	建設部長	石田悦一	開発調整課長	樺澤孝人
	開発監理部次長	原俊哉	開発調整課長補佐	谷聡
			建設行政課長	安永克博
			河川計画課長	石塚宗司
			道路計画課長	谷村昌史
			道路建設課長	橋本幸
			道路維持課長	坂場武彦
			港湾計画課長	中島靖
（札幌開発建設部）			次長（総務担当）	小泉祐智
			次長（道路・空港・公園担当）	桑島正樹
（小樽開発建設部）			次長（総務担当）	加藤章
			次長（河川・道路担当）	久保田啓二朗
（室蘭開発建設部）			次長（総務担当）	大屋充史
			次長（河川・道路担当）	山梨高裕
■北海道				
北海道	環境生活部長	小玉俊宏	環境生活部 文化・スポーツ局 スポーツ振興課長	長谷川浩幸
			建設部 建設政策局 維持管理防災課維持担当課長	若山浩
			建設部 建設政策局 維持管理防災課管理担当課長	早川隆則
			建設部 土木局 道路課長	宮下忠昭
（石狩振興局）			副局長	椿谷信雄
（後志総合振興局）			副局長	森元紀昭
			小樽建設管理部 地域調整課長	工藤高宏
（胆振総合振興局）			副局長	下宮俊明
			室蘭建設管理部 地域調整課長	河合龍寿
■市町村				
札幌市	スポーツ部長	手島久仁彦	企画事業課長	吉田満
小樽市	教育部長	工藤裕司	生涯スポーツ課長	丸田健太郎
赤井川村	副村長	髙木康行	総務課長	小畑信幸
倶知安町	副町長	窪田栄	総合政策課長	文字一志
共和町	副町長	竹内孝	企画振興課長	成田慎一
蘭越町	副町長	金秀行	総務課長	山内勲
ニセコ町	副町長	林知己	商工観光課長	前原功治
京極町	副町長	矢戸貢	企画振興課長	榎本美智子
喜茂別町	副町長	内村俊二	総務課企画室長	大元真
真狩村	副村長	大平慎一郎	総務企画課参事	酒井秀利
洞爺湖町	副町長	森寿浩	観光振興課長	佐々木清志
豊浦町	副町長	小川英紀	水産商工振興課長	杉谷佳昭
壮瞥町	副町長	杉村治男	商工観光課長	斉藤英俊
伊達市	企画財政部長	石澤高幸	企画課長	髙田真次
千歳市	観光スポーツ部長	小田賢一	スポーツ振興課長	廣瀬誠
苫小牧市	総合政策部長	冨田聡子	スポーツ推進室長	澤田憲生
恵庭市	保健福祉部長	船田清	健康スポーツ課長	嘉屋秀樹

ツール・ド・北海道2016　大会競技役員名簿

■大会実行委員長
勇崎　恒也

■大会実行副委員長
穴田　勝彦・小野　盛秀

■総務委員長・大会ディレクター
山本　隆幸

■総務副委員長
和田　俊博

■総務委員
尾埜　森己・湊　雄一・石戸谷　眞逸・大脇　恒夫
堀江　洋一郎・小塚　耕平・高道　宏司・奥塚　静雄
土屋　朋子・小林　かおり・児玉　万里・真田　英夫

(協会事務局)
牛島　元嗣・中山　忠雄・木田　光良・山田　幸雄

(式典・賞典担当)
一関　祐次

(市民レース担当)
堀江　洋一郎・板谷　治・安倍　明政・五十嵐　誠
鈴木　秀之・遊佐　義彦・百瀬　堅・真田　達雄
平井　友昭

(チーム担当)
高橋　幸久・古谷　裕佳・土屋　朋子

(通訳)
デーヴィット バーネット

(警備・コース担当)
石戸谷　眞逸・小野　俊博・今野　昭二・林　公悦

(会場・車両担当)
澤田　順一・鈴木　伸二・林　実雄・湯口　雄司
武田　正好

(交通対策担当)
嶋田　隆・柏木　康男

(オートバイエスコート)
田中　隆・樽見　隆男・小林　久人・前田　実・萱原　孝行
鈴木　信行・山口 哲夫・近藤 敏子

■広報委員長
加賀　雅実

■ 広報副委員長
湊　雄一

(広報担当)
山内　康史・芦田　千里

(集計・コミュニケ担当)
大脇　恒夫・堀江　洋一郎・島村　千樹・尾西　基樹
灘　幸宏・小牧　祐也・大鳥居　雅

■審判長
ロヒナヴィ ナタポン

■競技ディレクター
大島　研一・小野　盛秀

■コミセールパネル
森尻　展充・斉藤　晃一郎

(審判員)
大脇 恒夫・坂本　陽一・中村　恭治・富和　清訓
中野崎　敏幸・吉清水　一之・櫻澤　幸雄・坂本　満
森本　聡・藤原　盛一・假谷　豊・若生　宏
渡辺　知明・綿貫　光子・愛場　政広・中安　基之
小口　英之・小野口　智美・奥原　進治・向井　資晴
蓼沼　真弓・岡田　将太・山田　里奈・十時　正一郎
佐々木　博・宮里　武志・力石　達也・高橋　松吉
清水　一孝・夏目　幸・大野　直志・末吉　敦
勝見　洋一・長谷部　信一・近岡　紀子・山口　智裕
椎名　直子・石垣　秀人・中井　豊・大貫　勝豊
平出　剛一・蓮沼　英司・酒井　和彦・石橋　旭
金澤　昭二・池田　正二郎・千葉　鶴也・穴田　裕哉
池田　恭子・泉　隆・市原　雅幸・岡部　克
岡部　美知子・奥村　隆一・鴨川　敬・菊地　ひずる
岸澤　隆・木村　俊一・櫻井　雅彦・坂　知明
佐藤　泉・佐藤　雅憲・重田　康成・菅　清香
外崎　修・津田　欣一・鶴田　数義・寺井　英治
西野　勝士・野中　勇一・長谷　孝一・福島　剛
堀　英子・堀江　洋一郎・松藤　英紀・松田　茂
室井　文男・薮下　昌也・和田　真宏・髙井　孝二
工藤　貴行・陣野原　勝・前田　和輝・鴨川　有李
脇山　淳・田中　健一・上野　幸二

■ドーピングコントロール
(ドーピングコントロールオフィサー)
鈴木　靖・佐藤　裕・久保　晋大

(シャペロン)
岡本　敬介・窪田　篤人・加藤　信太郎

(事務局担当)
宮　孝司

■NF Rep (国内競技団体代表)
笠師　久美子

■医務担当医師
青木　昌弘・伊藤　秀行・山田　隆宏・前田　慶太郎

■医務・医療担当
松田　悦子・秋保　頼子・出羽　寿恵・石川　敬子
重田　亜紀子・松田　祐香・川村　勝幸・村田　俊一

■ニュートラルサービス担当
坂東　晃・高橋　義彦・三瀧　光誠・竹村　孝行
蓼沼　和成・川口　朋・石倉　龍二・引間　大介
猪瀬　昇太・寺田　稔・西村　荘平・早坂　幸久

■補給地点担当
澤田　賢吉・松居　勝徳

■選手収容担当
高橋　幸久・古谷　裕佳

ツール・ド・北海道2016 賛助会員名簿

●法人

一般社団法人 網走建設業協会
一般財団法人 石狩川振興財団
小樽建設協会
一般社団法人 寒地港湾技術研究センター
札幌自転車競技連盟
一般社団法人 函館建設業協会
一般社団法人 北海道開発技術センター
一般財団法人 北海道開発協会
一般財団法人 北海道河川財団
一般財団法人 北海道コンクリート技術センター
北海道自転車軽自動車商業協同組合
一般社団法人 北海道商工会議所連合会
一般社団法人 北海道測量設計業協会
一般財団法人 北海道道路管理技術センター
一般社団法人 北海道土地改良建設協会
一般社団法人 北海道土地改良設計技術協会
公益社団法人 北海道トラック協会
稚内建設協会

葵建設株式会社
赤川建設興業株式会社
阿寒共立土建株式会社
秋津道路株式会社
旭イノベックス株式会社
株式会社アサヒ建設コンサルタント
あすなろ道路株式会社
綾羽株式会社
荒井建設株式会社
株式会社安藤・間 札幌支店
株式会社生駒組
勇建設株式会社
株式会社 石山組
株式会社伊豆倉組
株式会社磯田組
株式会社伊藤組
伊藤組土建 株式会社
株式会社伊藤工業
岩倉建設株式会社
岩田地崎建設株式会社
植村建設株式会社
株式会社エーティック
株式会社園建
及川産業株式会社
大江建設株式会社
株式会社大林組 札幌支店
大林道路株式会社 北海道支店
株式会社ガイアートT・K 北海道支店
株式会社開発工営社
開発工建株式会社
鹿島道路株式会社 北海道支店
鎌田輪業有限会社
機械開発北旺株式会社
岸本産業 株式会社
株式会社北一組
北日本港湾コンサルタント株式会社
協和八光建設株式会社
株式会社近代設計 札幌支社
草野作工株式会社
栗林建設株式会社
光栄建設工業株式会社
株式会社構研エンジニアリング
株式会社小金澤組
小針土建株式会社
こぶし建設株式会社
有限会社サイクル小野サッポロ
斉藤井出建設株式会社
坂野建設株式会社
株式会社佐々木建設
札建工業株式会社
札幌建設運送株式会社
沢田建設株式会社
三協建設株式会社
三共電気工業株式会社
株式会社サン広告社
JXトレーディング株式会社
清水建設株式会社 北海道支店
白崎建設株式会社
株式会社シン技術コンサル
新太平洋建設株式会社
新島工業株式会社
新谷建設株式会社
杉原建設株式会社
世紀東急工業株式会社 北海道支店
株式会社総北海 札幌支社
大成ロテック株式会社 北海道支社
大地コンサルタント株式会社
大同舗道株式会社
大北土建工業株式会社
株式会社ダイヤコンサルタント北海道支社
株式会社高組
高玉建設工業株式会社
タカハタ建設株式会社
株式会社田中組
株式会社田中工業
株式会社谷脇組
株式会社 田端本堂カンパニー
株式会社玉川組
株式会社田宮設計事務所
地崎道路株式会社 北海道支店
中央コンサルタンツ株式会社 札幌支店
株式会社通電技術
辻谷建設株式会社
ツバメ工業株式会社
株式会社DSP
鉄建建設株式会社 札幌支店
電通設備株式会社
東亜道路工業株式会社 北海道支社
東海建設株式会社
株式会社東京鐵骨橋梁 北海道支店
道興建設株式会社
東光舗道株式会社
株式会社東洋実業
道路建設株式会社
道路工業株式会社
株式会社ドーコン
徳井建設工業株式会社
戸田建設株式会社 札幌支店
戸田道路株式会社 札幌営業所
飛島建設株式会社 札幌支店
株式会社ドボク管理
株式会社土木技術コンサルタント
中道リース株式会社
株式会社中山組
西江建設株式会社
西松建設株式会社 札幌支店
株式会社日栄建設
日成建設株式会社
日測技研株式会社
日本工営株式会社 札幌支店
日本データーサービス株式会社
日本道路株式会社 北海道支店
株式会社野田組
パシフィックコンサルタンツ株式会社
株式会社橋本川島コーポレーション
花本建設株式会社
パブリックコンサルタント株式会社
東日本道路株式会社
日吉建設株式会社
株式会社廣野組
不二建設株式会社
冨士新舗道株式会社
株式会社藤田組
藤原工業株式会社
株式会社不動テトラ 北海道支店
萌州建設株式会社
北央道路工業株式会社
北斗徽章株式会社
北土建設株式会社
北都道路株式会社
株式会社北開水工コンサルタント
北海道空港株式会社
株式会社北海道新聞社
北海道道路エンジニアリング株式会社
株式会社北海道丸和ロジスティクス
北海道ロードメンテナンス株式会社
株式会社堀口組
堀松建設工業株式会社
幌村建設株式会社
前田建設工業株式会社 北海道支店
前田道路株式会社 北海道支店
丸建道路株式会社 札幌支店
丸駒シビルサービス株式会社
丸彦渡辺建設株式会社
三井住建道路株式会社 北海道支店
宮坂建設工業株式会社
宮永建設株式会社
株式会社宮原組
宮脇土建株式会社
村井建設株式会社
株式会社盛永組
株式会社森本商会
株式会社山内組
株式会社山口工業所
山高建設工業株式会社
株式会社山田組
株式会社山伏パコム
山本電子工業株式会社
渡辺建設工業株式会社

●個人

阿部　芳昭
牛島　元嗣
梅田　　勝
大野裕一郎
小塚　耕平
鈴木　秀之
清﨑　晶雄
田下　啓一
恒松　　浩
東岱　庄一
巻　　登
遊佐　義彦
渡辺　総悦

TOUR DE HOKKAIDO

お問い合わせ先／For further information
〒060-0005 札幌市中央区北5条西6丁目1番地23 第二道通ビル 5階
Daini Dotsu Bldg. 5F, North 5,West 6, Chuo-ku, Sapporo, 060-0005, Japan
公益財団法人ツール・ド・北海道協会／Tour de Hokkaido Association
電話（011）222-5922 ファックス（011）232-4604
Tel+81-11-222-5922 Fax+81-11-232-4604
http://www.tour-de-hokkaido.or.jp
E-mail tourde-h@spice.ocn.ne.jp
E-mail tourdech@jasmine.ocn.ne.jp（for English）

公益財団法人日本自転車競技連盟／JAPAN CYCLING FEDERATION
電話（03）6277-2690 ファックス（03）6277-2691
Tel+81-3-6277-2690 Fax+81-3-6277-2691
http://www.jcf.or.jp
E-mail cycling@japan-sports.or.jp

UNION CYCLISTE INTERNATIONALE（国際自転車競技連合）
TEL+41-24-468-5811 FAX+41-24-468-5812

NIPPO ROYCE' SUBARU

※表紙のご紹介

この事業報告の表紙は、札幌市立大学との地域産学連携協力の下に制作された同大学デザイン学部の 水 石 公 基 さんのツール・ド・北海道2016公式ポスターデザインを使用しています。

●発行／公益財団法人ツール・ド・北海道協会　●発行日／平成28年10月31日